

**身近な商品・サービスの価格等に関する
アンケート調査報告**

2022年10月

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

目 次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	身近な商品・サービスの価格について	
問 1	現在の物価に対する実感	2
問 2	1年前と比べた商品・サービス別の支出に対する実感	3
問 3	1年前と比べた商品・サービス別の購入量や支出金額	4
問 4	買い物に際して、節約のために心がけていること	7
問 5	1年後の物価の見込み	8
問 6	ガソリン価格に際して、節約のために心がけていること	9
問 7	普段利用するガソリンスタンドについて	10
問 8	ガソリンスタンドを利用する際に、重視すること	11
問 9	商品・サービス価格について、あなたが望むこと	12
問 10	商品・サービスの値上がりに関連して、欲しい情報	13
2	消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について	
問 11	消費者教育・啓発、情報提供事業の認知度	14
問 12	消費者教育・啓発、情報提供事業の効果	15
問 13	消費生活情報「あいち暮らしっく」の活用	16
問 14	「あいち暮らしっく」等に掲載してほしい情報・分野	17
問 15	「あいち暮らしWEB」及び「エシカル×あいち」の閲覧項目	18
問 16	消費者問題に関する授業や講座の参加経験	20
問 17	消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマ	21
問 18	高齢者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	22
問 19	若者の消費者トラブル未然防止のために必要な対策	23
問 20	消費生活相談窓口の活用にも有効な対策	24
問 21	エシカル消費の認知度、普段取り組んでいるエシカル消費	25
問 22	エシカル消費の認知度を高めるために有効だと思う施策	26
3	食の安全・安心について	
問 23	食の安全に関する取組への関心度	27
問 24	食の安全への影響で特に不安に思っているもの	28
問 25	食品を購入するときに特に注意するもの	29
問 26	愛知県の食品衛生を向上させるための取組	30
問 27	アニサキスによる食中毒について	31
問 28	カンピロバクター食中毒について	32
問 29	植物の自然毒による食中毒について	33
問 30	ゲノム編集技術応用食品への関心について	34
問 31	食の安全・安心に関する情報発信で特に関心を持っているもの	35
問 32	食の安全・安心に関する意見・要望等	36

4 食生活について

問 33	無駄や廃棄の少ない食事づくりについて	37
問 34	栄養バランスのとれた食事について	38
問 35	野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について	39
問 36	郷土料理等の食文化の家庭・地域への継承について	40
問 37	食品を購入する際の産地について	41

I 調査の概要

1 調査の目的

コロナ禍からの世界経済の回復に伴う原油の需要増やロシアによるウクライナ侵略などの地政学的な変化などにより原油価格が高騰し、石油製品（ガソリン・灯油）を始め、各種運賃や日用品といった消費者に身近な商品やサービスの値上げが続いています。

消費者が商品やサービスを選択する際、価格は最大要素の一つであり、多くの消費者が様々な生活防衛策を講じていることと思われます。

このアンケート調査は、消費者の意識、認知度、意向などを把握し、今後の施策の参考とするものです。

2 調査の実施時期

2022年8月8日から8月29日まで（郵送による）

3 調査対象者

愛知県消費生活モニター^(※) 147名 （回答者数135名 回収率 91.8%）

4 回答者の性別・年齢

(1) 性別 女性：83名（61.5%）、男性：52名（38.5%）

(2) 年代別 10歳代：2名（1.5%）、20歳代：8名（5.9%）、30歳代：11名（8.1%）、40歳代：30名（22.2%）、50歳代：26名（19.3%）、60歳代：32名（23.7%）、70歳代：19名（14.1%）、80歳以上：7名（5.2%）

（注1）調査結果の数値（率）は小数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

（注2）調査結果中の「有効回答者数」は、「調査対象者」から「未提出者」「無回答」「無効回答」を除いた数です。

※ 愛知県消費生活モニター：愛知県からの依頼により、危険と思われる商品、不当な表示、悪質商法などの観察や、県への情報提供を行うほか、身近な方への消費生活に関する情報の提供等を行っています。

II 調査結果

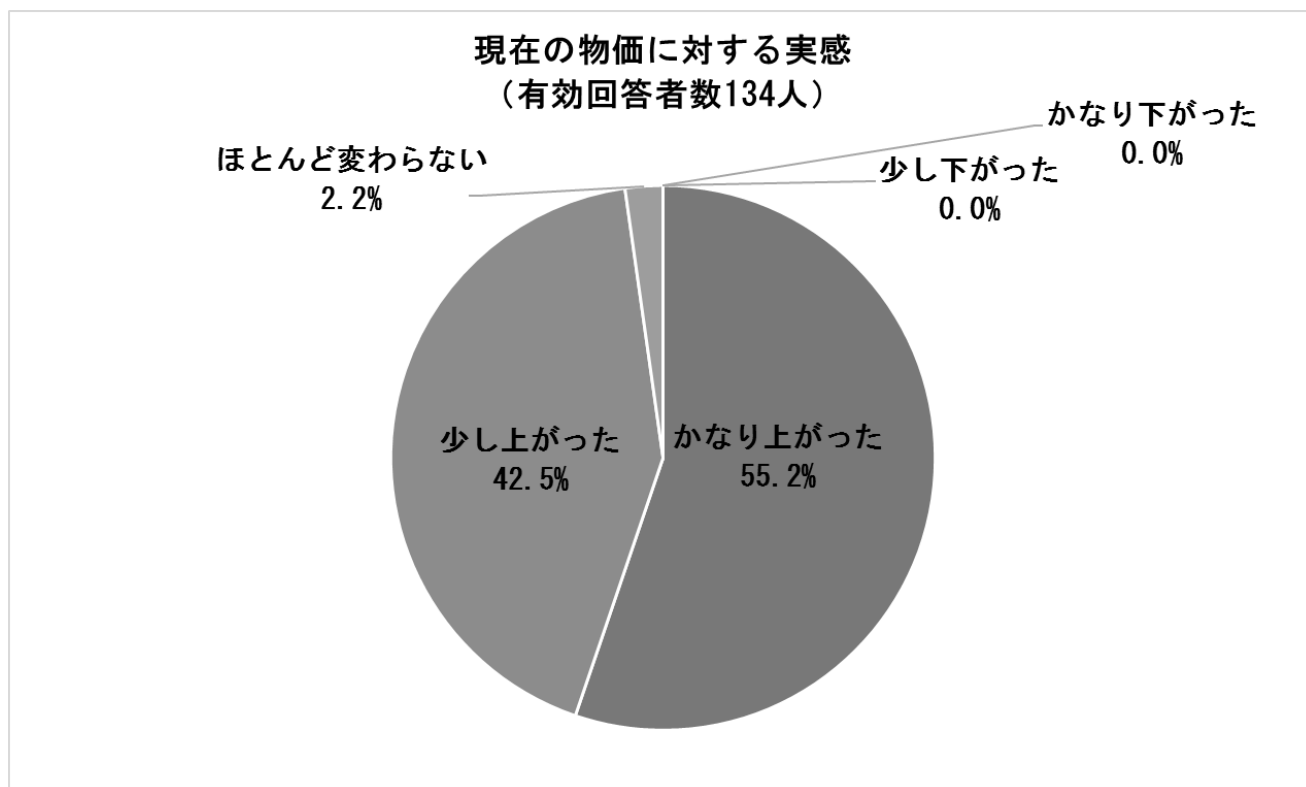
1 身近な商品・サービスの価格について

問1 現在の物価に対する実感（1年前との比較）について、あなた御自身の感覚では、「物価※」は1年前と比べてどう変わりましたか。（1つ選択）

※ここでいう物価とは、あなたが購入される物やサービスの価格全体のこととしてお考えください。

<回答結果>

現在の物価に対する実感（1年前との比較）について、「かなり上がった」が55.2%で最も多く、次いで「少し上がった」が42.5%、「ほとんど変わらない」が2.2%で、「少し下がった」及び「かなり下がった」はともに0%であった。

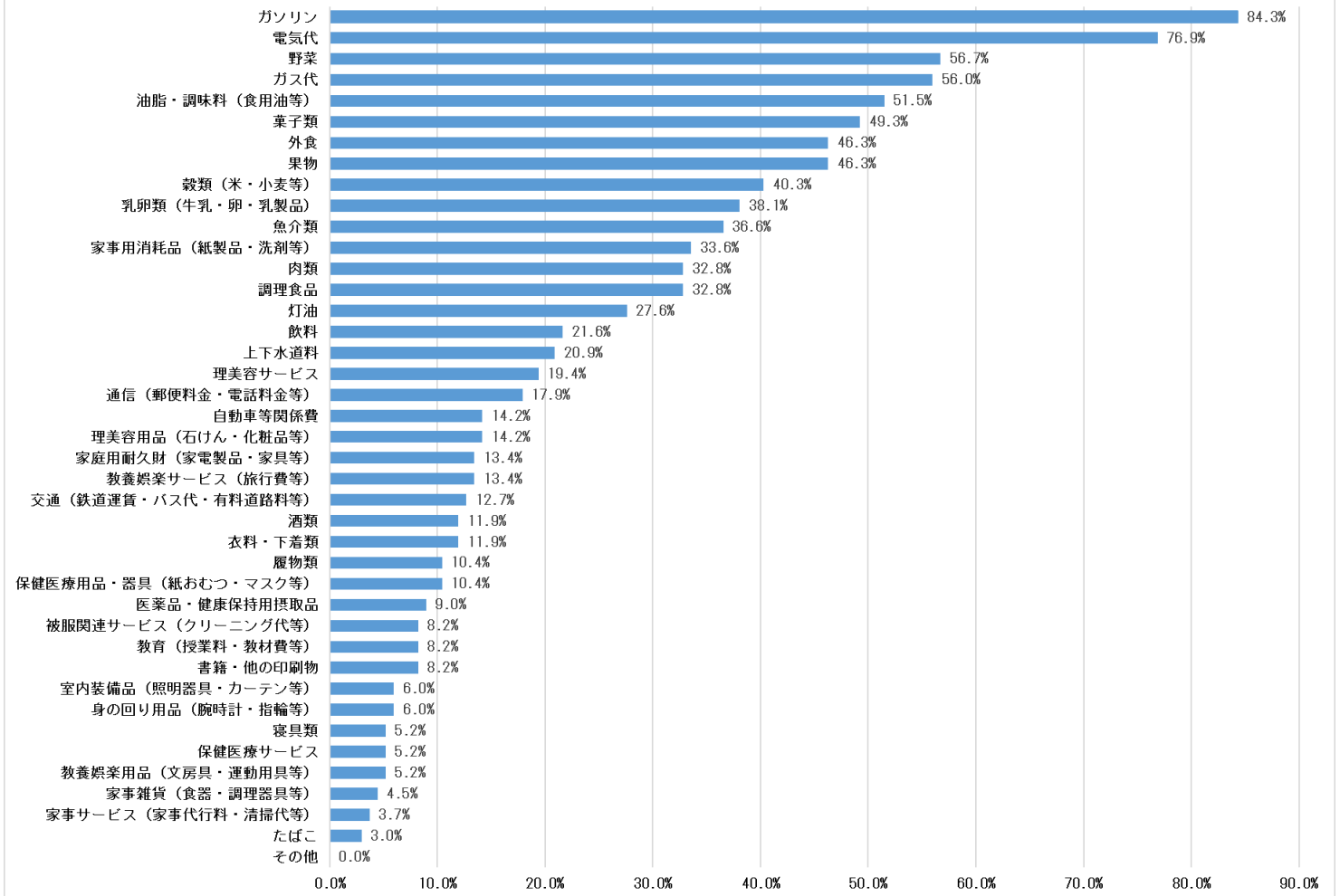


問2 1年前と比べた商品・サービス別の支出動向について、値上がりしていると感じられるものは何ですか。値上がりしていると感じるものに○をつけてください。(複数回答可)

<回答結果>

値上がりしていると感じられるものは、「ガソリン」が84.3%で最も多く、次いで「電気代」が76.9%、「野菜」が56.7%、「ガス代」が56.0%、「油脂・調味料（食用油等）」が51.5%の順であった。

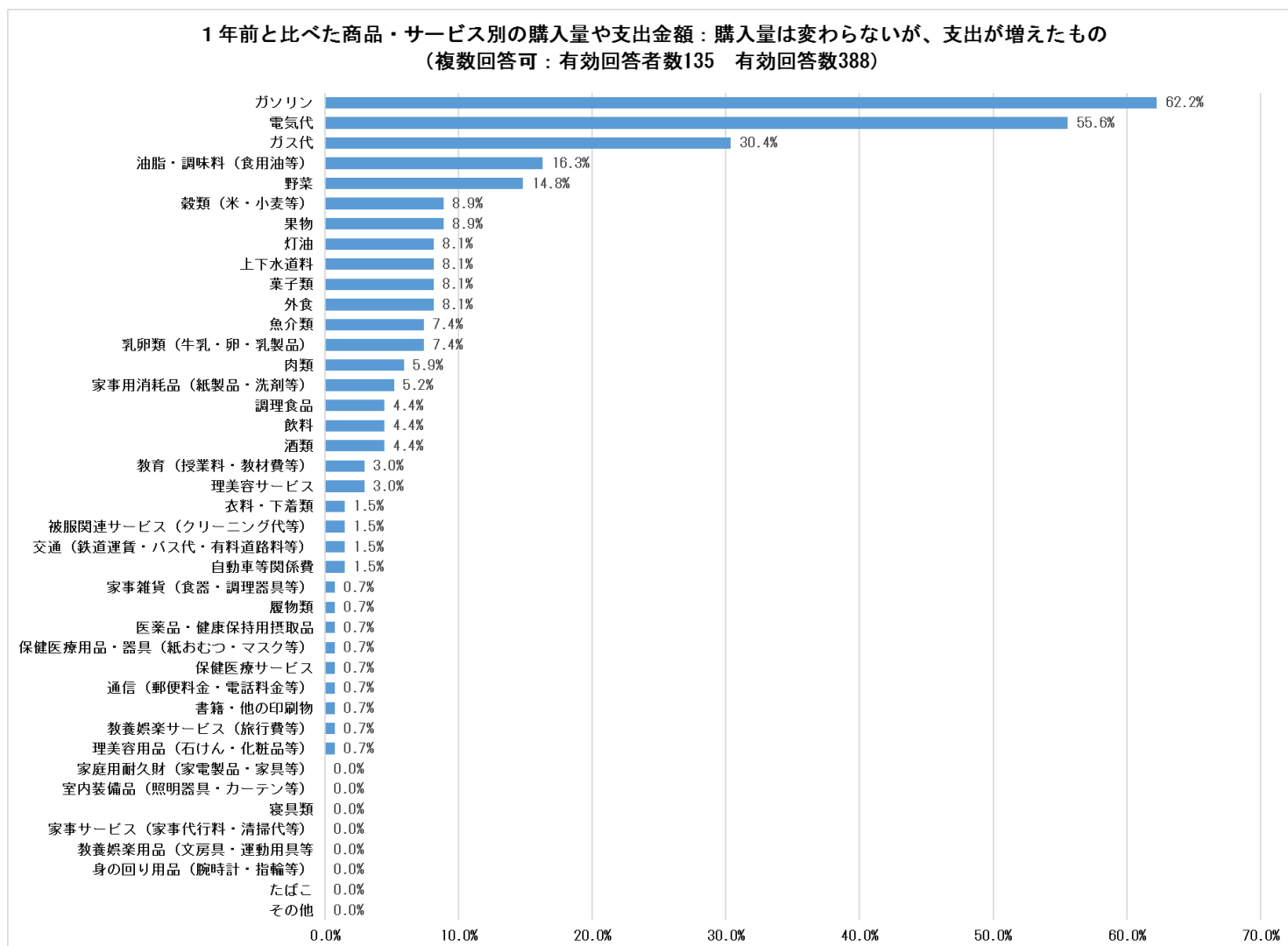
1年前と比べた商品・サービス別の支出に対する実感
(複数回答可：有効回答者数134 有効回答数1305)



問3 (1) 1年前と比べた商品・サービス別の支出動向について、1年前と比較して、次の商品やサービスに対する購入量や支出金額は、どのように変化しましたか。購入量は変わらないが、支出が増えたもの。(複数回答可)

<回答結果>

購入量は変わらないが、支出が増えたものについて、「ガソリン」が62.2%で最も多く、次いで「電気代」が55.6%、「ガス代」が30.4%、「油脂・調味料（食用油等）」が16.3%、「野菜」が14.8%の順であった。

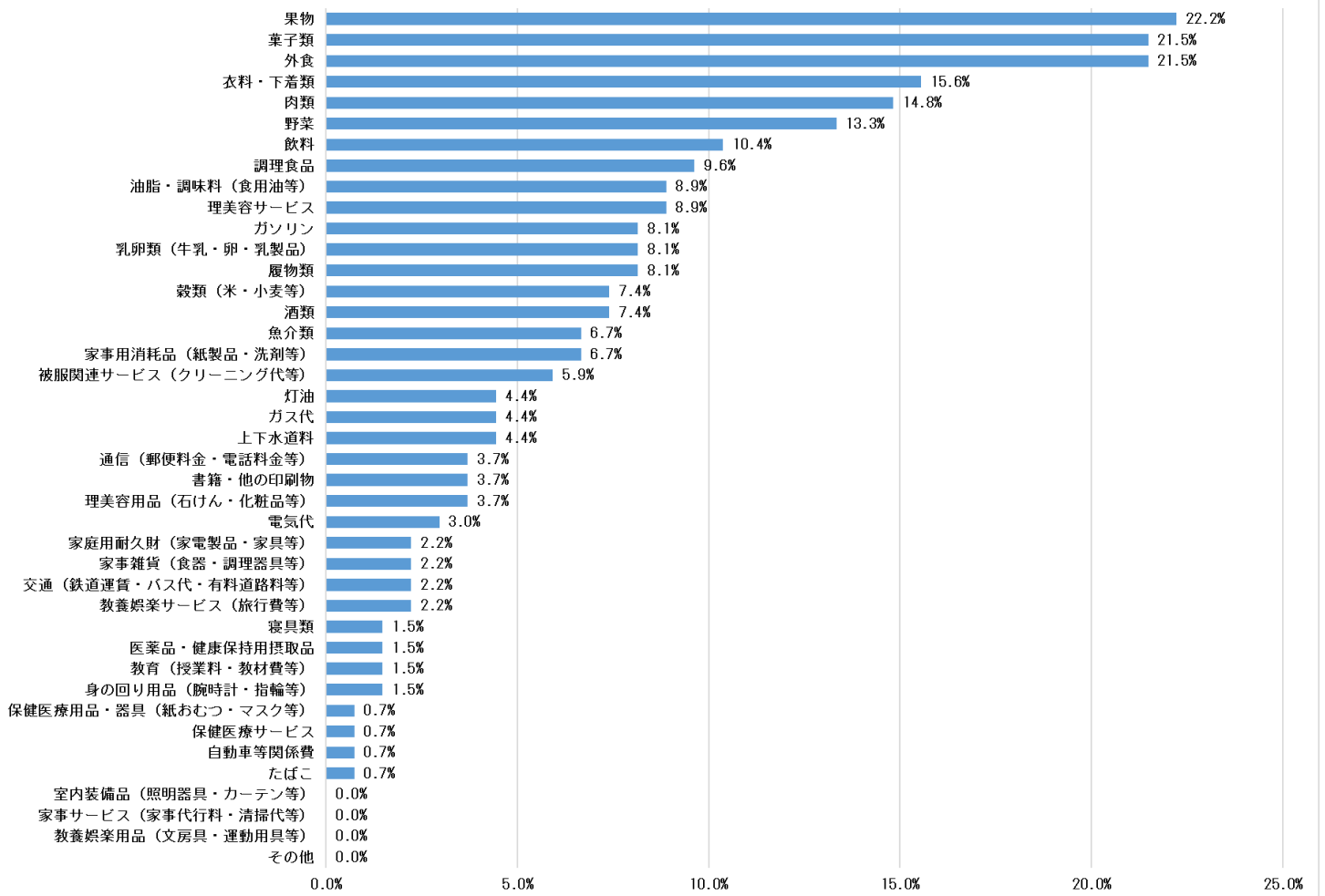


問3 (2) 1年前と比べた商品・サービス別の支出動向について、1年前と比較して、次の商品やサービスに対する購入量や支出金額は、どのように変化しましたか。購入量を減らし、支出は変わらないもの。(複数回答可)

<回答結果>

購入量を減らし、支出は変わらないものについて、「果物」が22.2%で最も多く、次いで「菓子類」が21.5%、「外食」が21.5%、「衣類・下着類」が15.6%、「肉類」が14.8%の順であった。

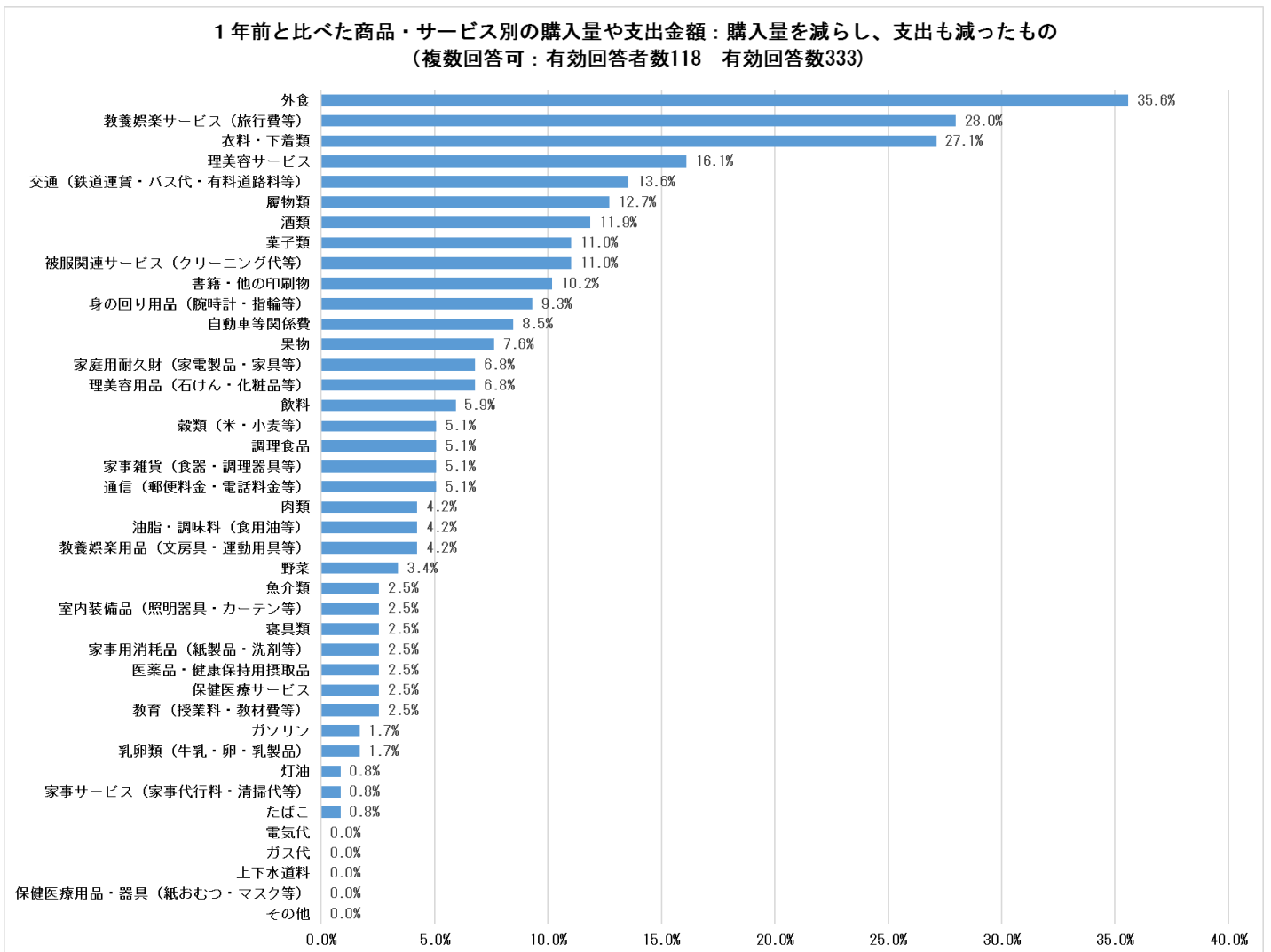
1年前と比べた商品・サービス別の購入量や支出金額：購入量を減らし、支出は変わらないもの
(複数回答可：有効回答者数135 有効回答数388)



問3 (3) 1年前と比べた商品・サービス別の支出動向について、1年前と比較して、次の商品やサービスに対する購入量や支出金額は、どのように変化しましたか。購入量を減らし、支出も減ったもの。(複数回答可)

<回答結果>

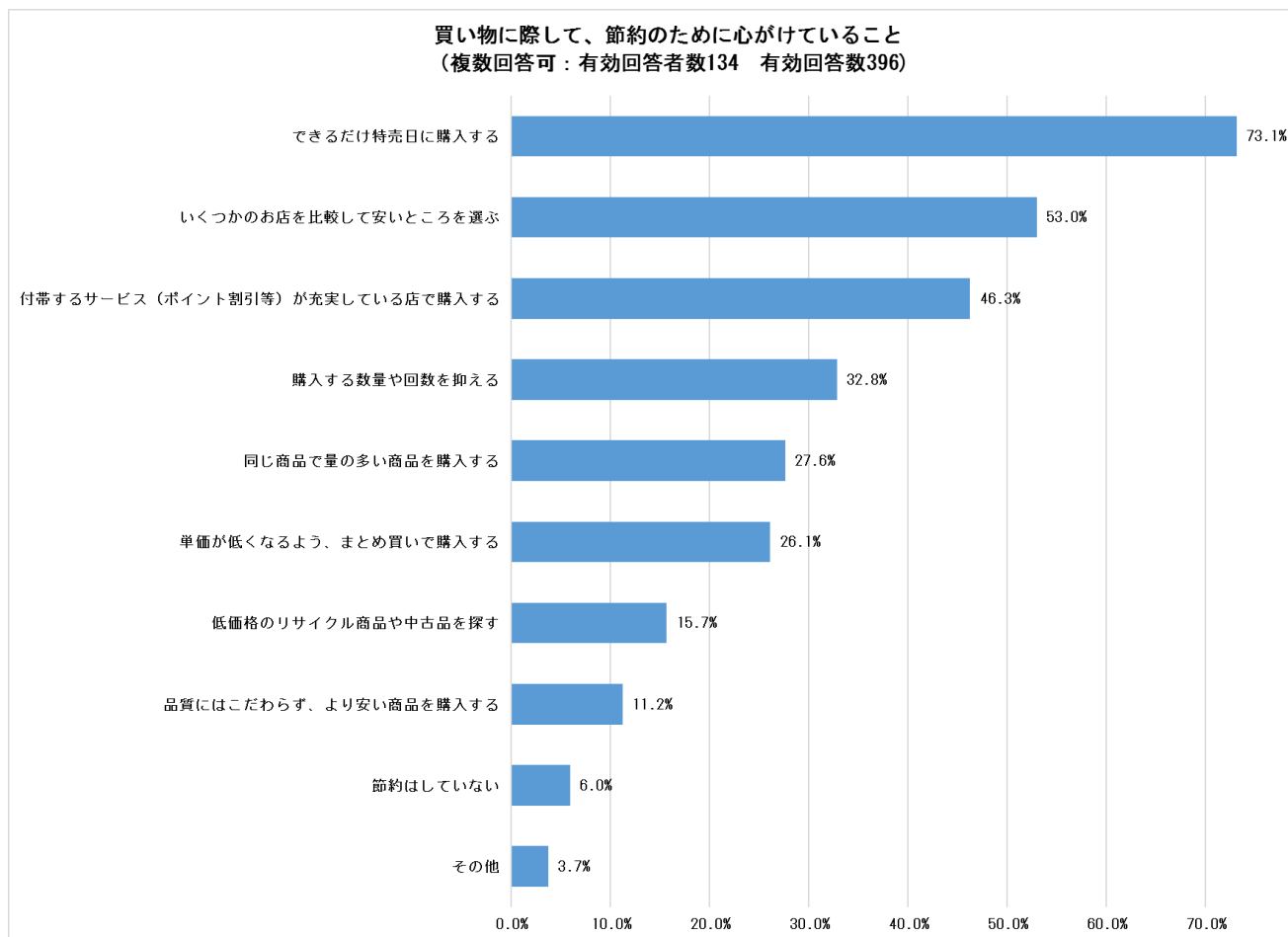
購入量を減らし、支出も減ったものについて、「**外食**」が35.6%で最も多く、次いで「**教養娯楽サービス(旅行費等)**」が28.0%、「**衣料・下着類**」が27.1%、「**理美容サービス**」が16.1%、「**交通(鉄道運賃・バス代・有料道路料等)**」が13.6%の順であった。



問4 買い物に際しての対策について、物価上昇を受けて、あなたが商品やサービスを購入する際、節約のために心がけていることは何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

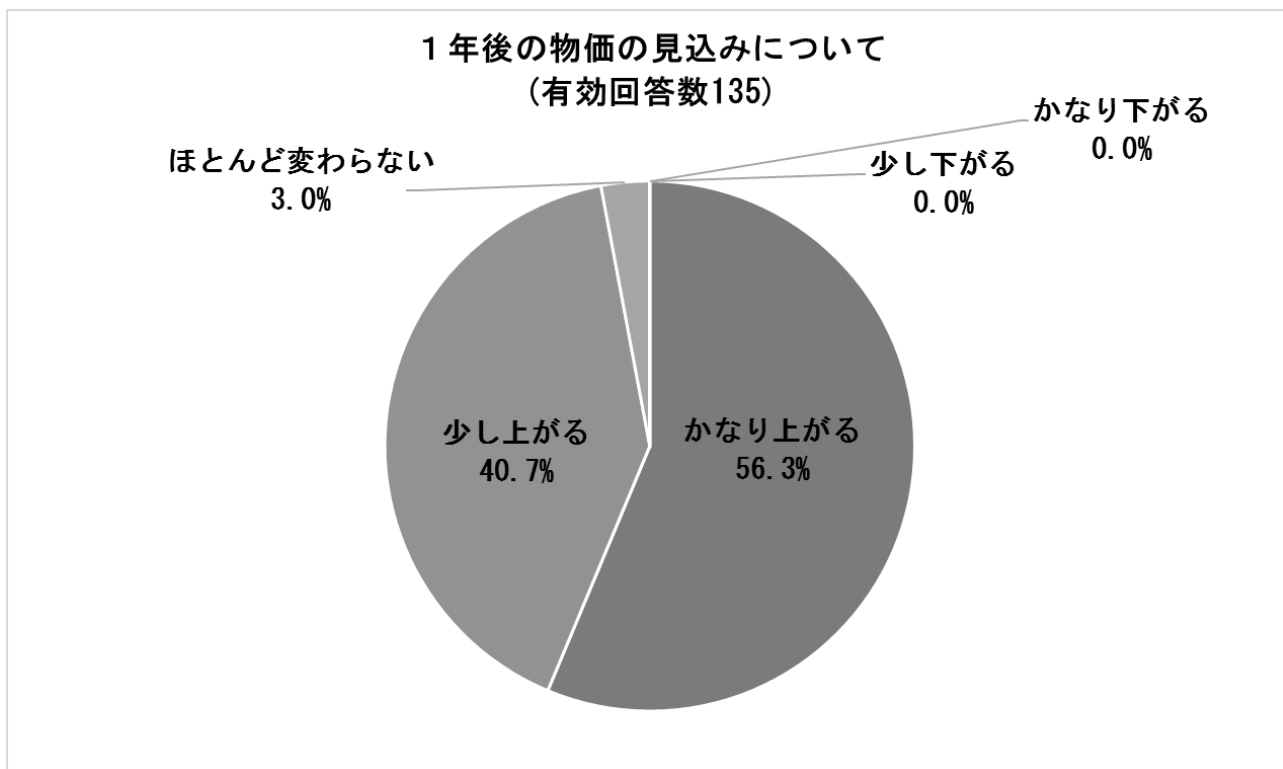
節約のために心がけていることについて、「できるだけ特売日に購入する」が73.1%で最も多く、次いで「いくつかのお店を比較して安いところを選ぶ」が53.0%、「付帯するサービス(ポイント割引等)が充実している店で購入する」が46.3%の順であった。



問5 1年後の物価の見込みについて、現在と比べてどうなると思いますか。(1つ選択)

<回答結果>

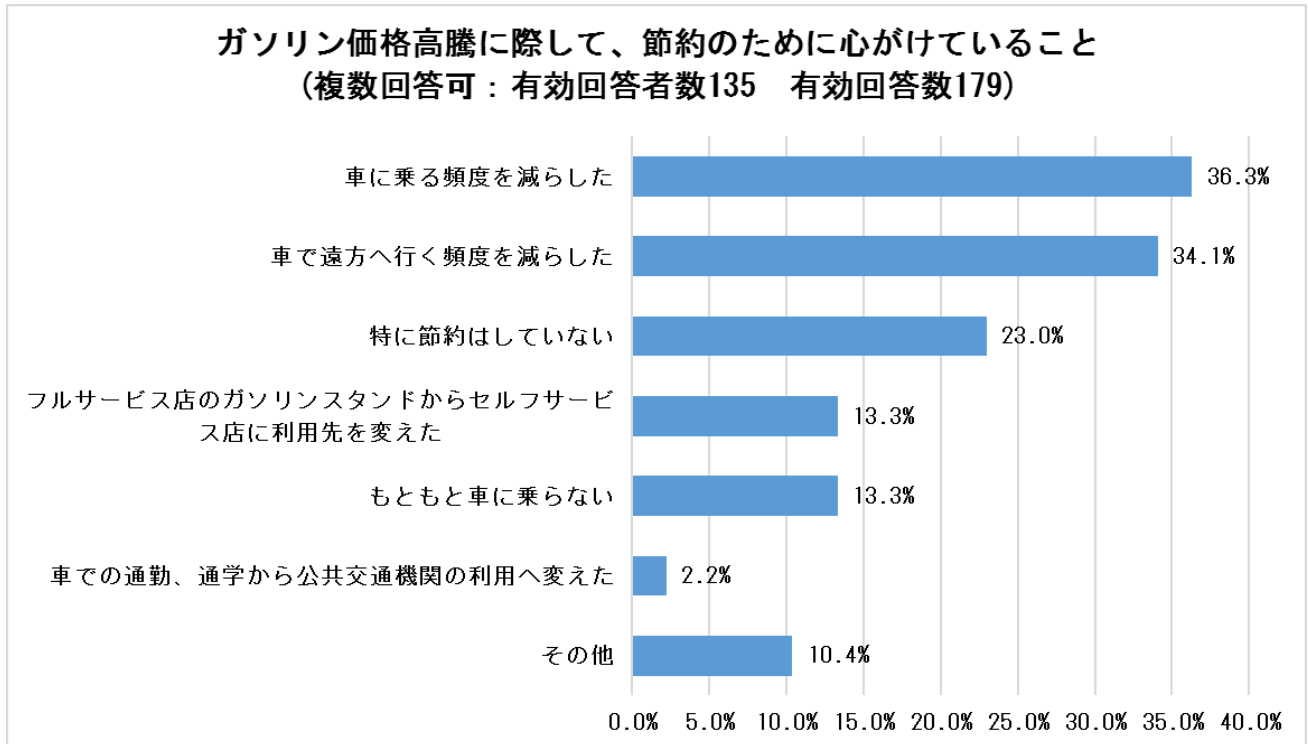
1年後の物価の見込みについて、「かなり上がる」が56.3%で最も多く、次いで「少し上がる」が40.7%、「ほとんど変わらない」が3.0%、「少し下がる」及び「かなり下がる」はともに0%であった。



問6 あなたがガソリン価格高騰に際して、節約のために心がけていることは何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

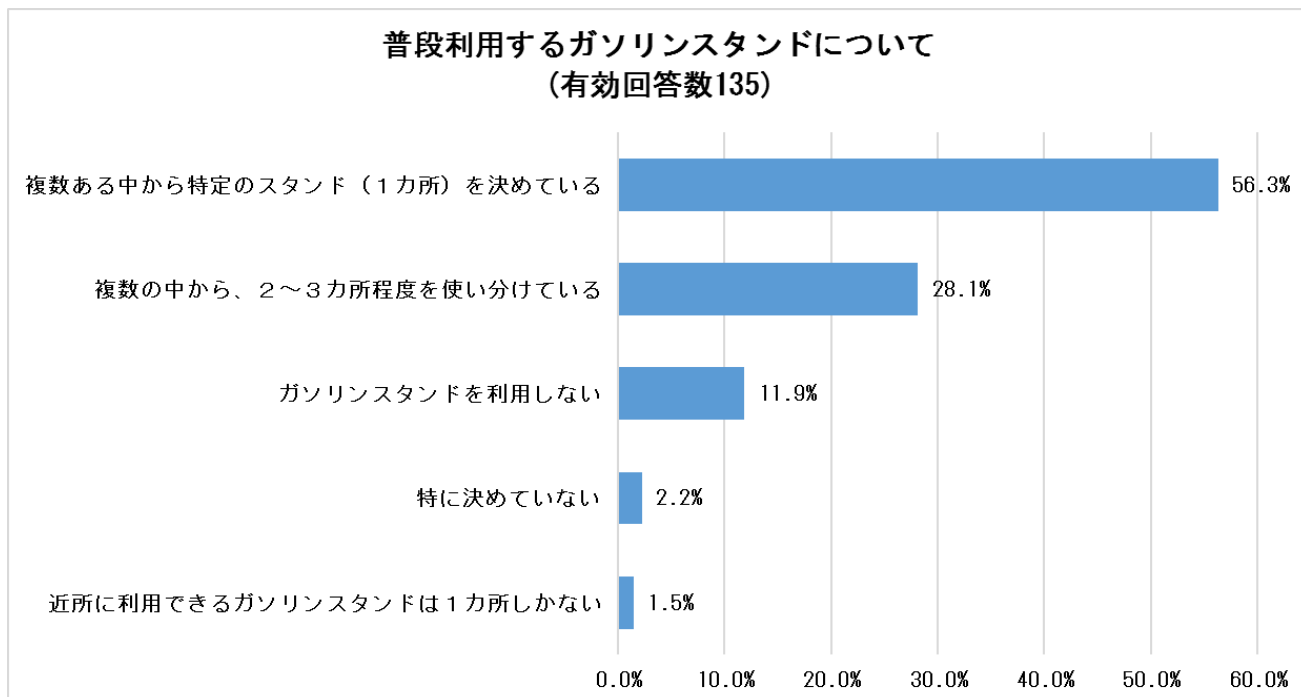
ガソリン価格高騰に際して、節約のために心がけていることについては、「車に乗る頻度を減らした」が36.3%で最も多く、次いで「車で遠方へ行く頻度を減らした」が34.1%、「特に節約はしていない」が23.0%の順であった。



問7 あなたは普段利用するガソリンスタンドを決めていますか。(1つ選択)

<回答結果>

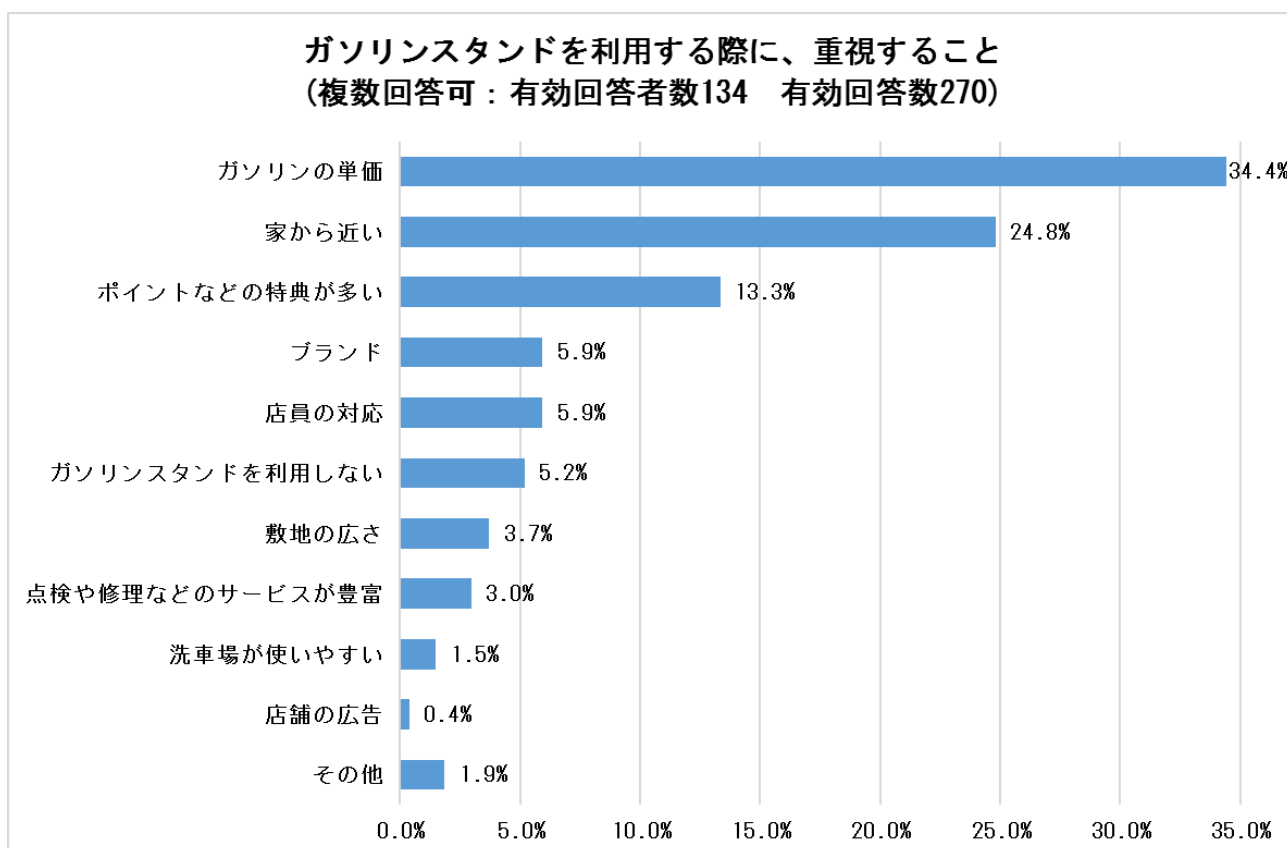
普段利用するガソリンスタンドについては、「複数ある中から特定のスタンド(1カ所)を決めている」が56.3%で最も多く、次いで「複数の中から、2~3カ所程度を使い分けている」が28.1%、「ガソリンスタンドを利用しない」が11.9%の順であった。



問8 あなたがガソリンスタンドを利用する際に、重視することは何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

ガソリンスタンドを利用する際に、重視することについては、「ガソリンの単価」が34.4%で最も多く、次いで「家から近い」が24.8%、「ポイントなどの特典が多い」が13.3%の順であった。

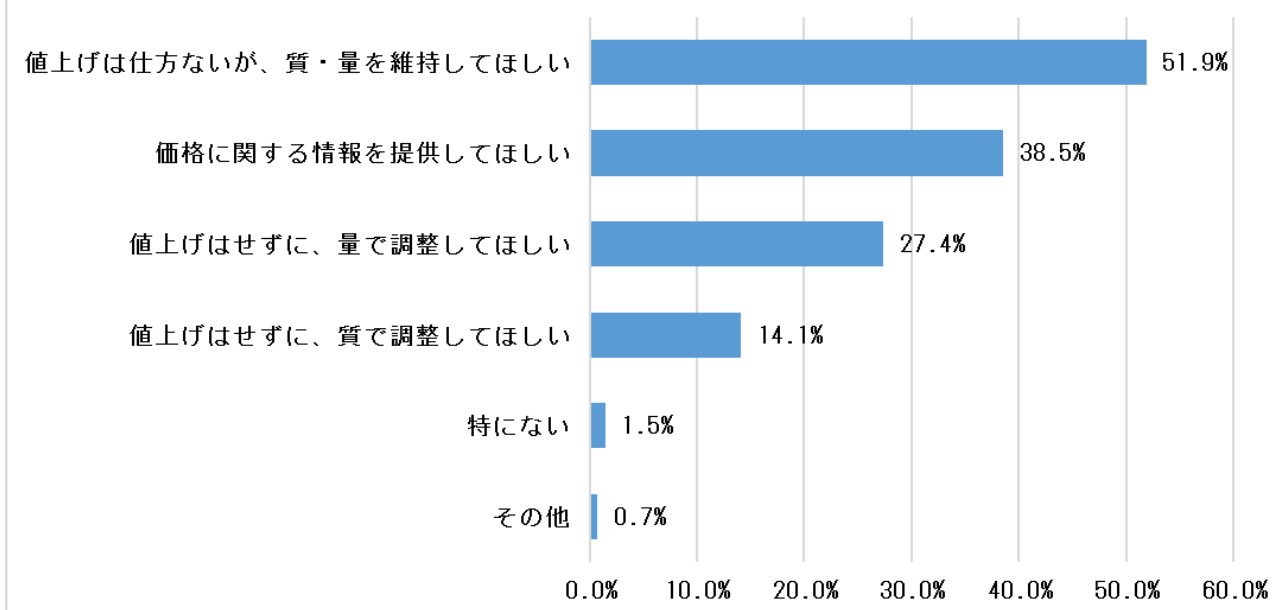


問9 商品・サービス価格について、あなたが望むことは何ですか。(複数回答可)

<回答結果>

商品・サービス価格について望むことは、「値上げは仕方ないが、質・量を維持してほしい」が51.9%で最も多く、次いで「価格に関する情報を提供してほしい」が38.5%、「値上げはせずに、量で調整してほしい」が27.4%、「値上げはせずに、質で調整してほしい」が14.1%の順であった。

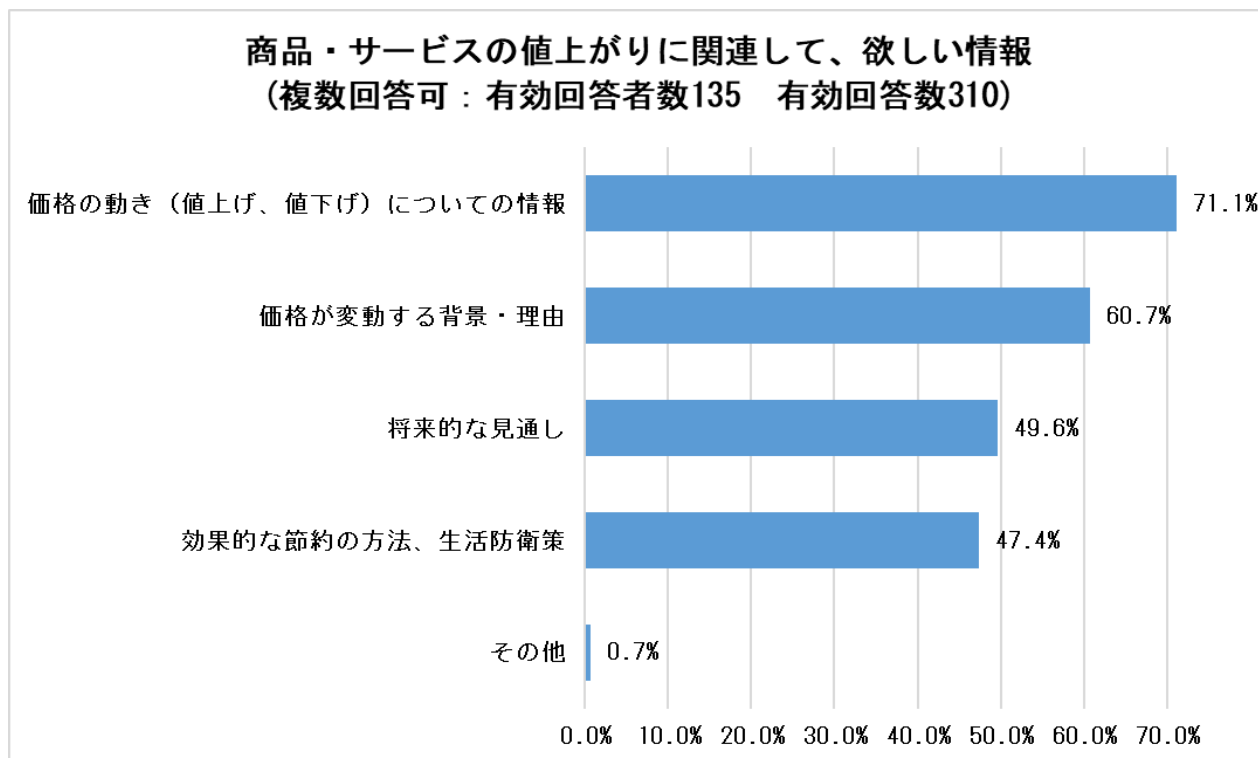
商品・サービス価格について望むこと
(複数回答可：有効回答者数135 有効回答数181)



問10 様々な商品・サービスの値上がりに関連して、あなたはどんな情報が欲しいと思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

様々な商品・サービスの値上がりに関連して、欲しいと思う情報については、「価格の動き（値上げ、値下げ）についての情報」が71.1%で最も多く、次いで「価格が変動する背景・理由」が60.7%、「将来的な見通し」が49.6%、「効果的な節約の方法、生活防衛策」が47.4%の順であった。

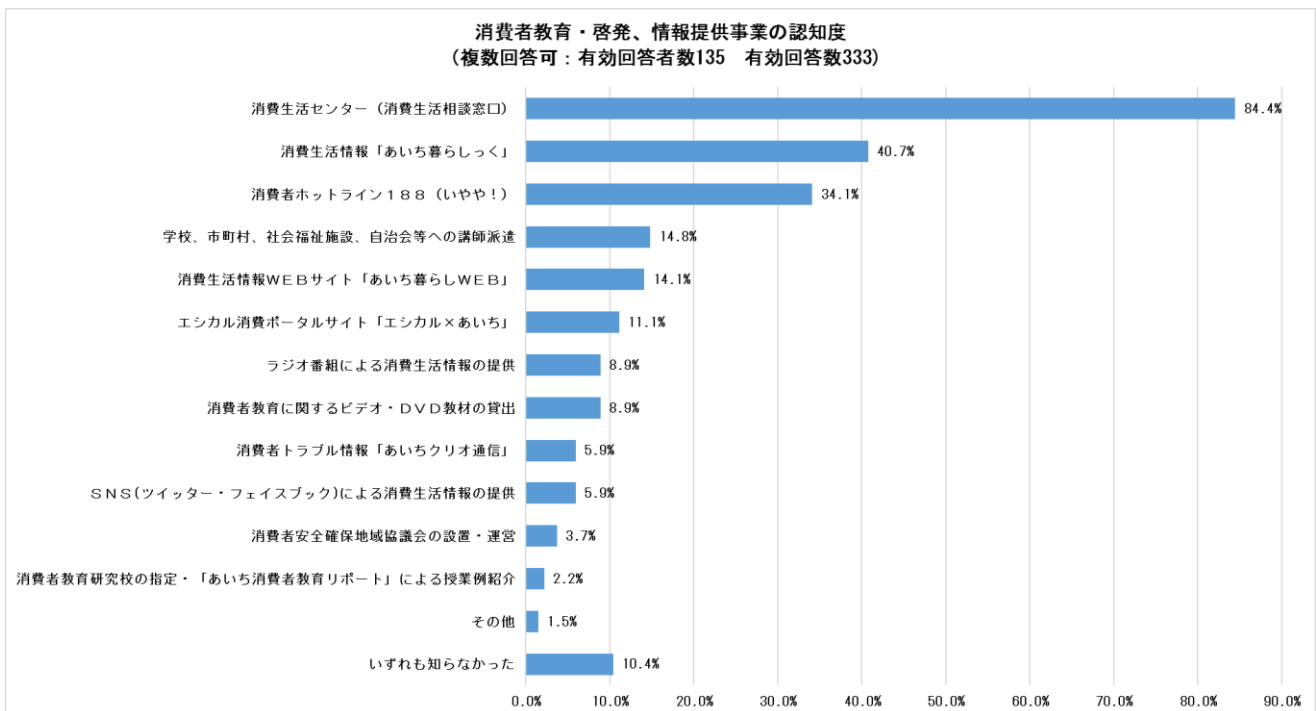


2 消費生活相談、消費者教育・啓発、情報提供事業について

問 11 消費生活センターの設置や、県（県民生活課）が行っている定例の消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活モニターになる以前から知っていたものはありますか。知っていたものを回答してください。（複数回答可）

<回答結果>

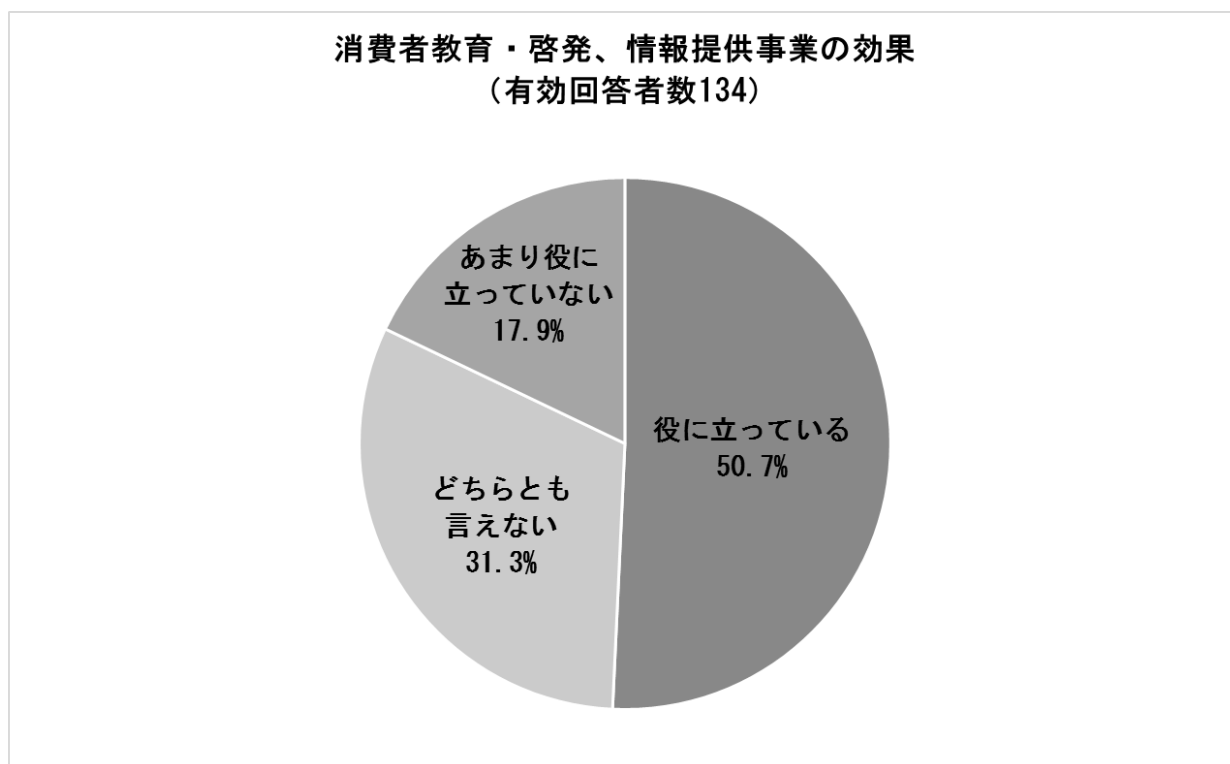
消費者教育・啓発、情報提供事業について知っていたものは、「消費生活センター(消費生活相談窓口)」が 84.4%で最も多く、次いで「消費生活情報『あいち暮らしっく』」が 40.7%、「消費者ホットライン 188 (いやや!）」が 34.1%、「学校、市町村、社会福祉施設、自治会等への講師派遣」が 14.8%、「消費生活情報 WEB サイト「あいち暮らしWEB」」が 14.1%の順であった。



問12 県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業について、消費生活の安定や向上に役立っていると思いますか。(1つ選択)

<回答結果>

県が行っている消費者教育・啓発、情報提供事業については、「役に立っている」が50.7%で最も多く、次いで「どちらとも言えない」が31.3%、「あまり役に立っていない」が17.9%の順であった。

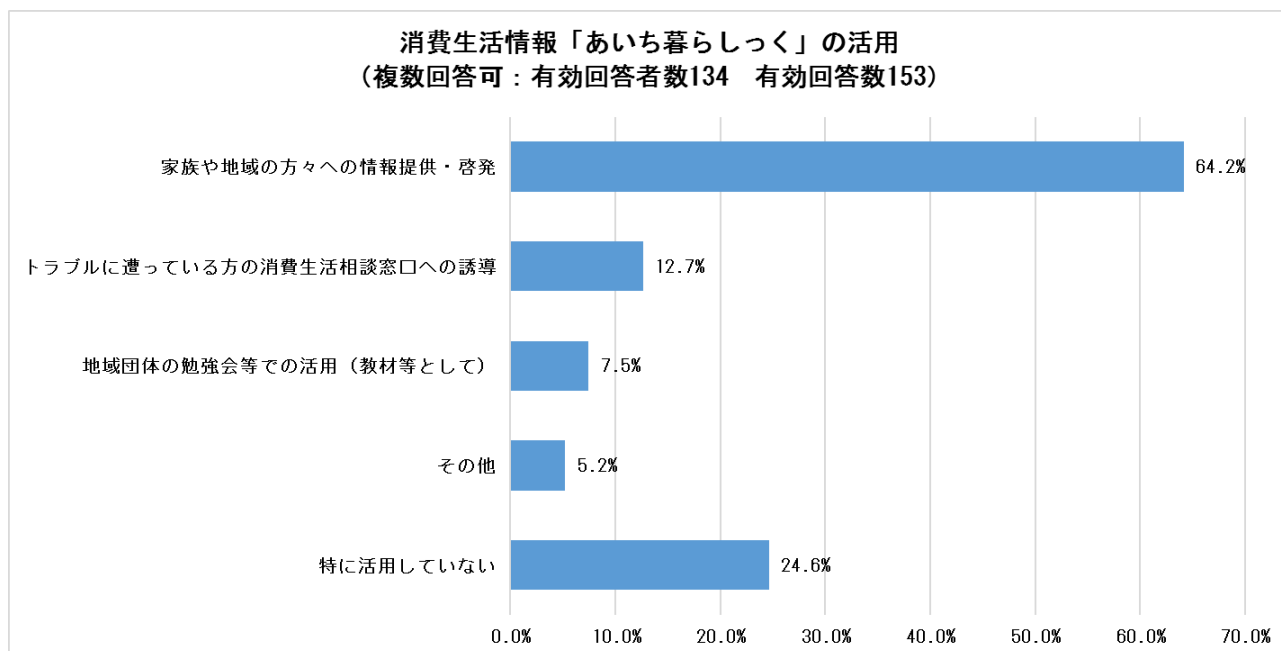


「あまり役に立っていない」理由としては、「周知されていない」、「PR不足」などが挙げられた。また、その改善策としては、「新聞、テレビ、ラジオや市町村の広報を活用する」、「SNS等を積極的に活用する」、「県内の企業と協力し、企業の広告などに情報を載せる」などが挙げられた。

問 13 県では消費生活情報「あいち暮らしっく」を年に6回発行し、消費生活モニターの皆様へ郵送させていただきますが、どのようにご利用いただいておりますか。(複数回答可)

<回答結果>

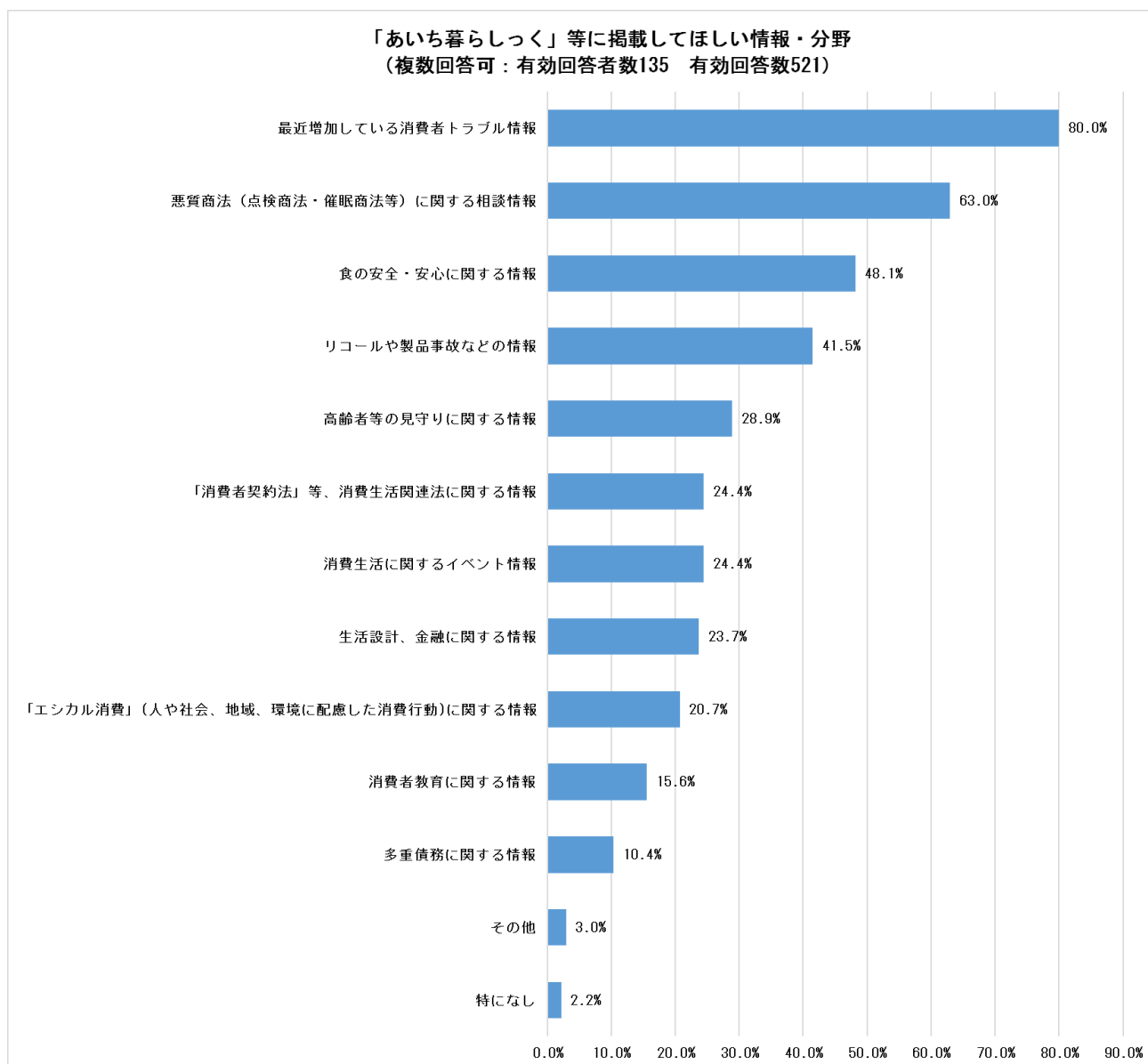
消費生活情報「あいち暮らしっく」について、「家族や地域の方々への情報提供・啓発」が64.2%で最も多く、次いで「トラブルに遭っている方の消費生活相談窓口への誘導」が12.7%、「地域団体の勉強会等での活用(教材等として)」が7.5%、「特に活用していない」が24.6%の順であった。



問 14 消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は何ですか。（複数回答可）

<回答結果>

消費生活情報「あいち暮らしっく」等の啓発物に掲載してほしい消費生活の情報・分野は、「最近増加している消費者トラブル情報」が80.0%で最も多く、次いで「悪質商法（点検商法・催眠商法等）に関する相談情報」が63.0%、「食の安全・安心に関する情報」が48.1%の順であった。



問 15 県の消費生活情報WEBサイト「あいち暮らしWEB」

(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/shohiseikatsu/>) 及び、エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」(<https://www.pref.aichi.jp/kenmin/ethical/>)について、どの情報をよくご覧になりますか。(複数回答可)

また、『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない や、『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない を選択された場合、その理由を記入してください。

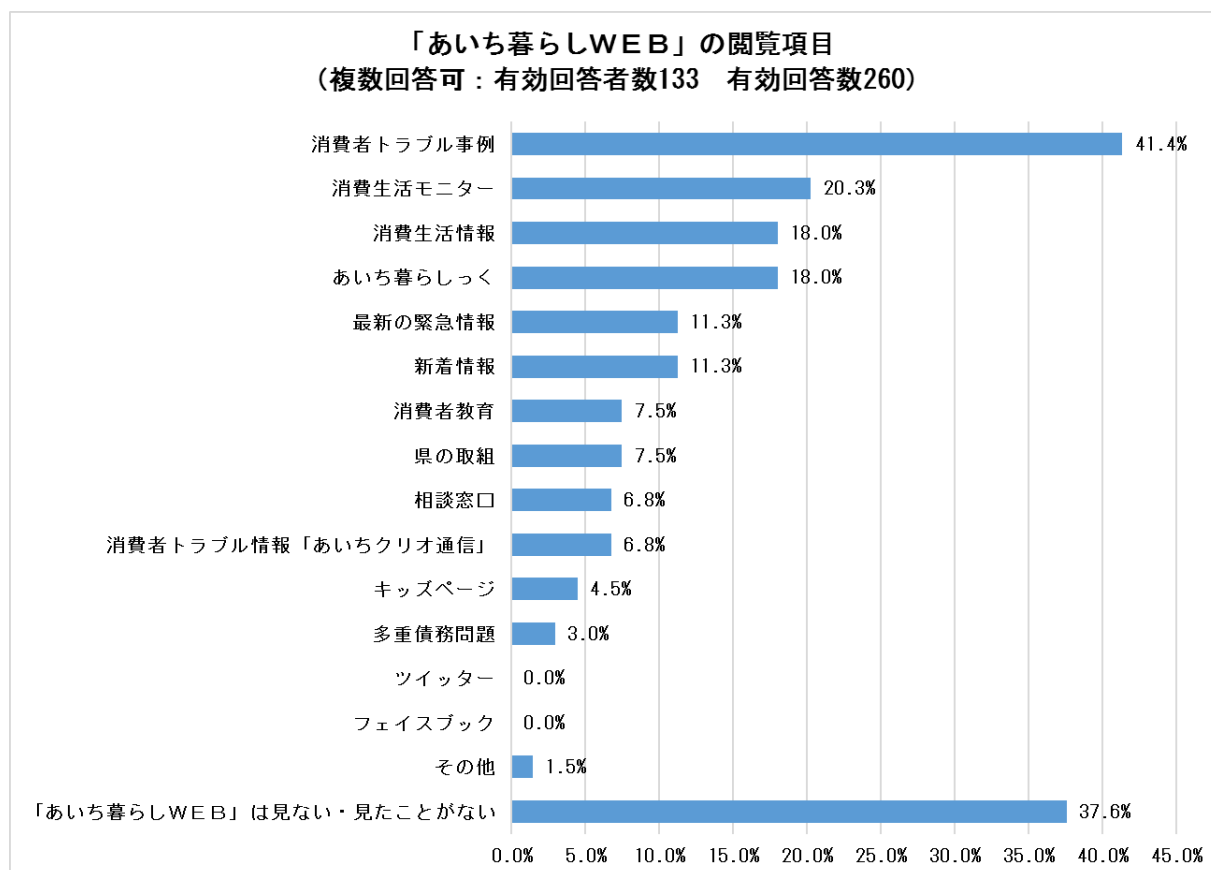
<回答結果>

【県の消費生活情報WEBサイト「あいち暮らしWEB」について】

「あいち暮らしWEB」でよく見られている情報は「消費者トラブル事例」が41.4%で最も多く、次いで「消費生活モニター」が20.3%、「消費生活情報」が18.0%、「あいち暮らしっく」が18.0%の順であった。

一方、回答者の37.6%は『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがないと回答した。

『あいち暮らしWEB』は見ない・見たことがない理由については、「知らなかった」、「紙で見る方がよい」、「パソコンやスマホに不慣れ」などであった。



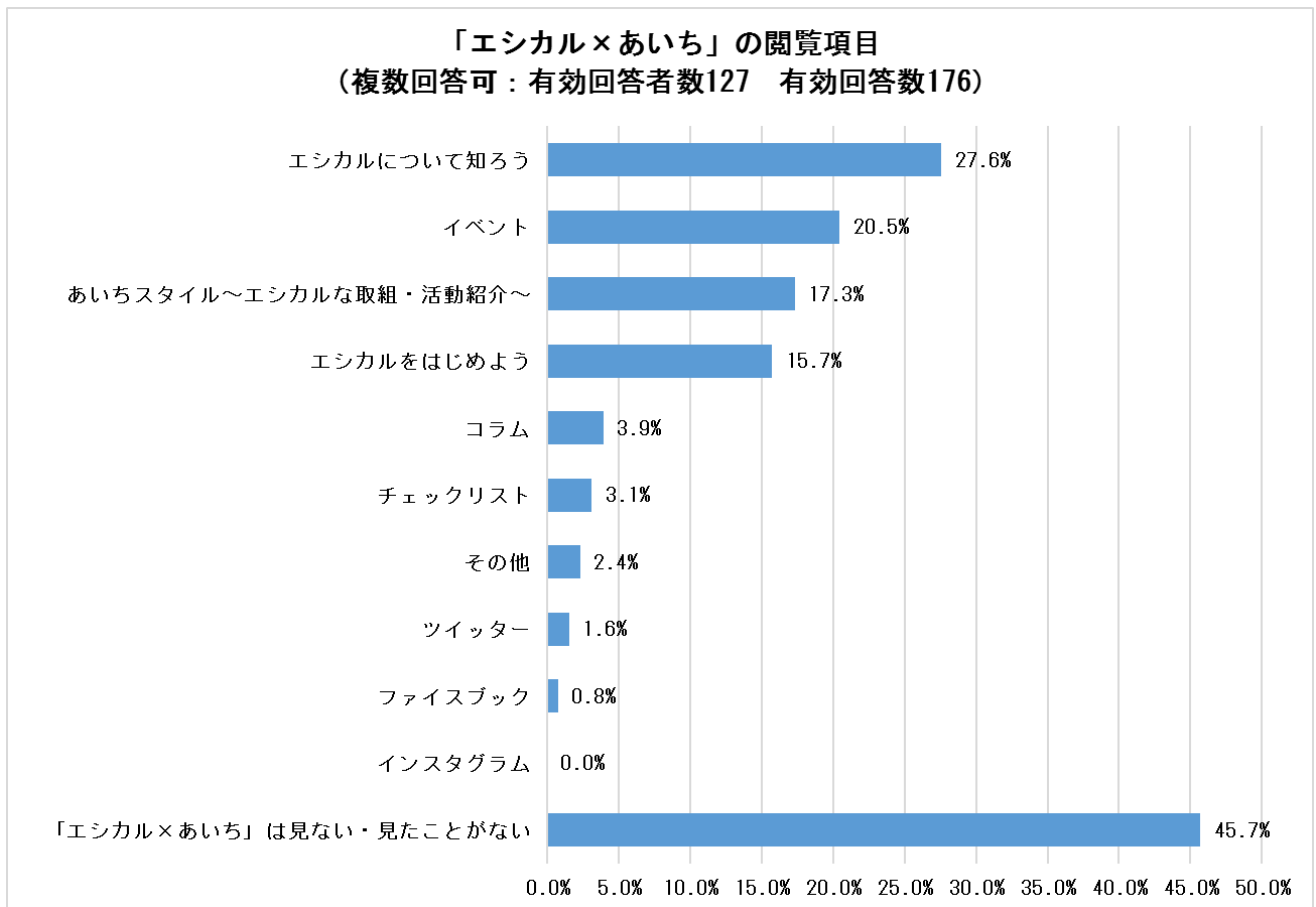
<回答結果>

【エシカル消費ポータルサイト「エシカル×あいち」について】

「エシカル消費ポータルサイト『エシカル×あいち』」でよく見られている情報は「エシカルについて知ろう」が27.6%で最も多く、次いで「イベント」が20.5%、「あいちスタイル～エシカルな取組・活動紹介～」が17.3%の順であった。

一方、回答者の45.7%は「『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」と回答した。

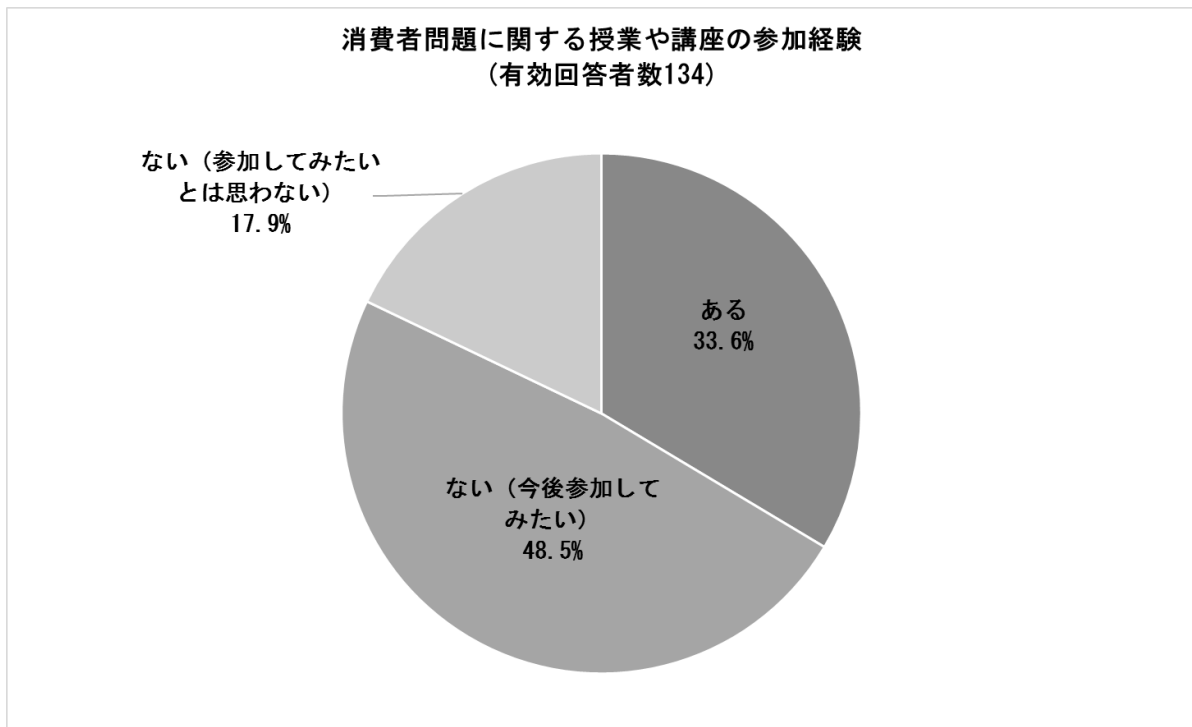
「『エシカル×あいち』は見ない・見たことがない」理由については、「WEBサイトの存在を知らなかった」、「紙で見の方がよい」、「パソコンで検索してまで見ない」、「関心が低い」などがあつた。



問 16 消費者問題に関する授業を受けたり、講座に参加したりしたことはありますか。(1つ選択)
また、「ない (参加してみたいとは思わない)」を選択された場合、その理由は何ですか。

<回答結果>

消費者問題に関する授業や講座の参加経験は、「ない (今後参加してみたい)」が 48.5%で最も多く、次いで「ある」33.6%、「ない (参加してみたいとは思わない)」17.9%の順であった。

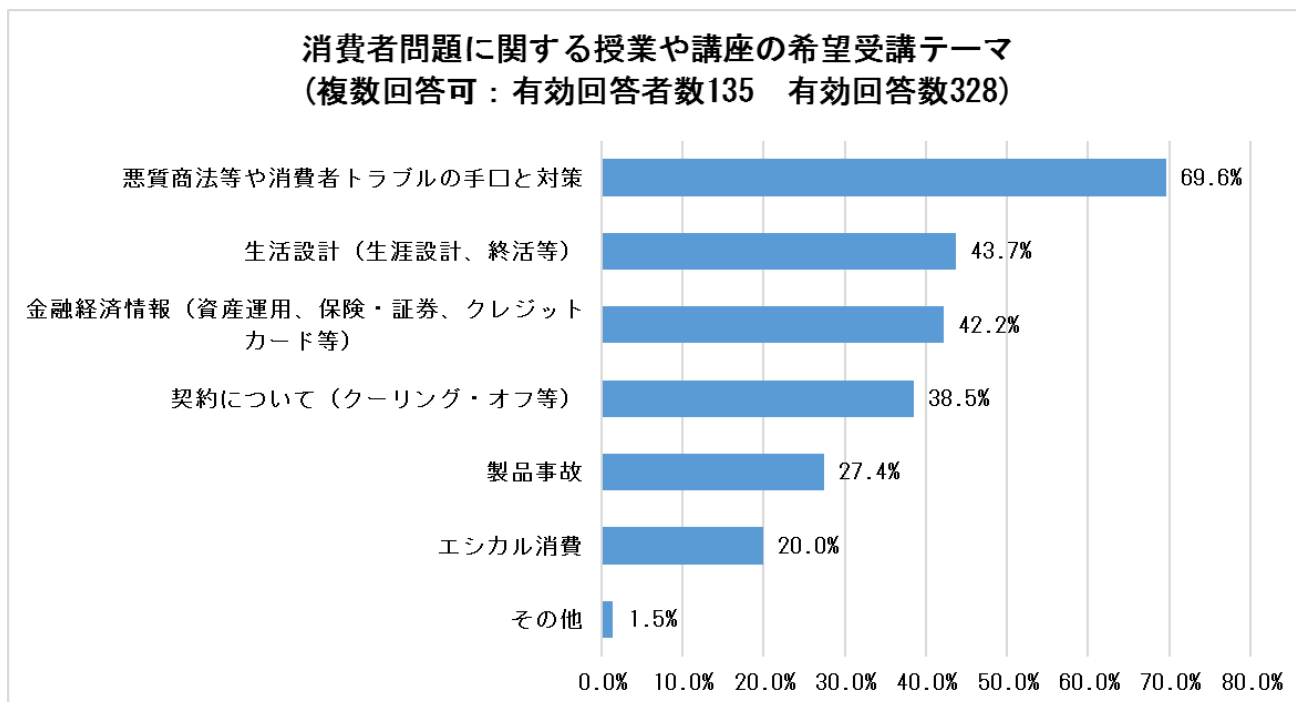


参加してみたいとは思わない理由については、「新型コロナウイルス感染予防のため、多くの人が集まる会場には行かないようにしているため」が16名で最も多く、「近隣で講座等が実施されていないため」が8名、「内容が難しそうであるため」、「消費者被害の未然防止に有効であるとは思えないため」がそれぞれ4名であった。

問 17 あなたが消費者問題に関する授業や講座を受ける場合、どのようなテーマの受講を希望しますか。(複数回答可)

<回答結果>

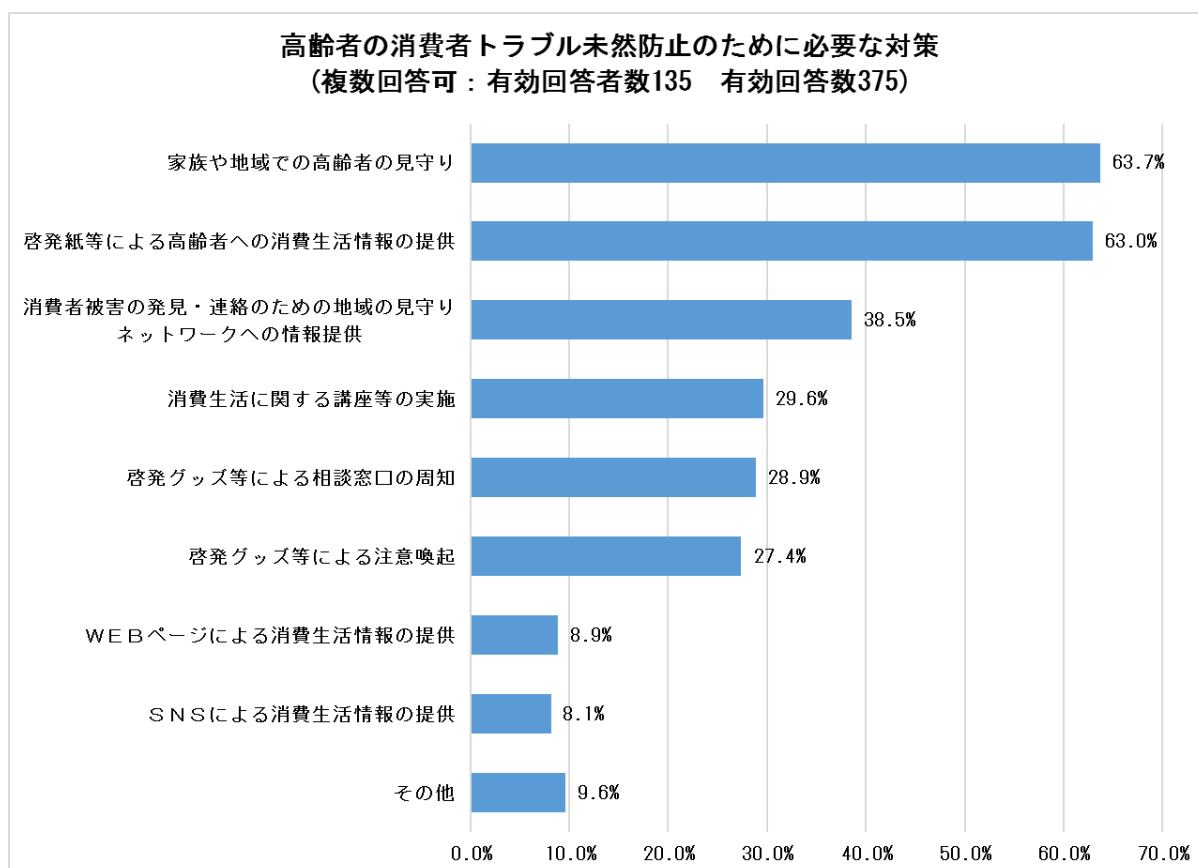
消費者問題に関する授業や講座の希望受講テーマは、「悪質商法等や消費者トラブルの手口と対策」が 69.6%で最も多く、次いで「生活設計(生涯設計、終活等)」が 43.7%、「金融経済情報(資産運用、保険・証券、クレジットカード等)」が 42.2%の順であった。



問 18 高齢者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。
(複数回答可)

<回答結果>

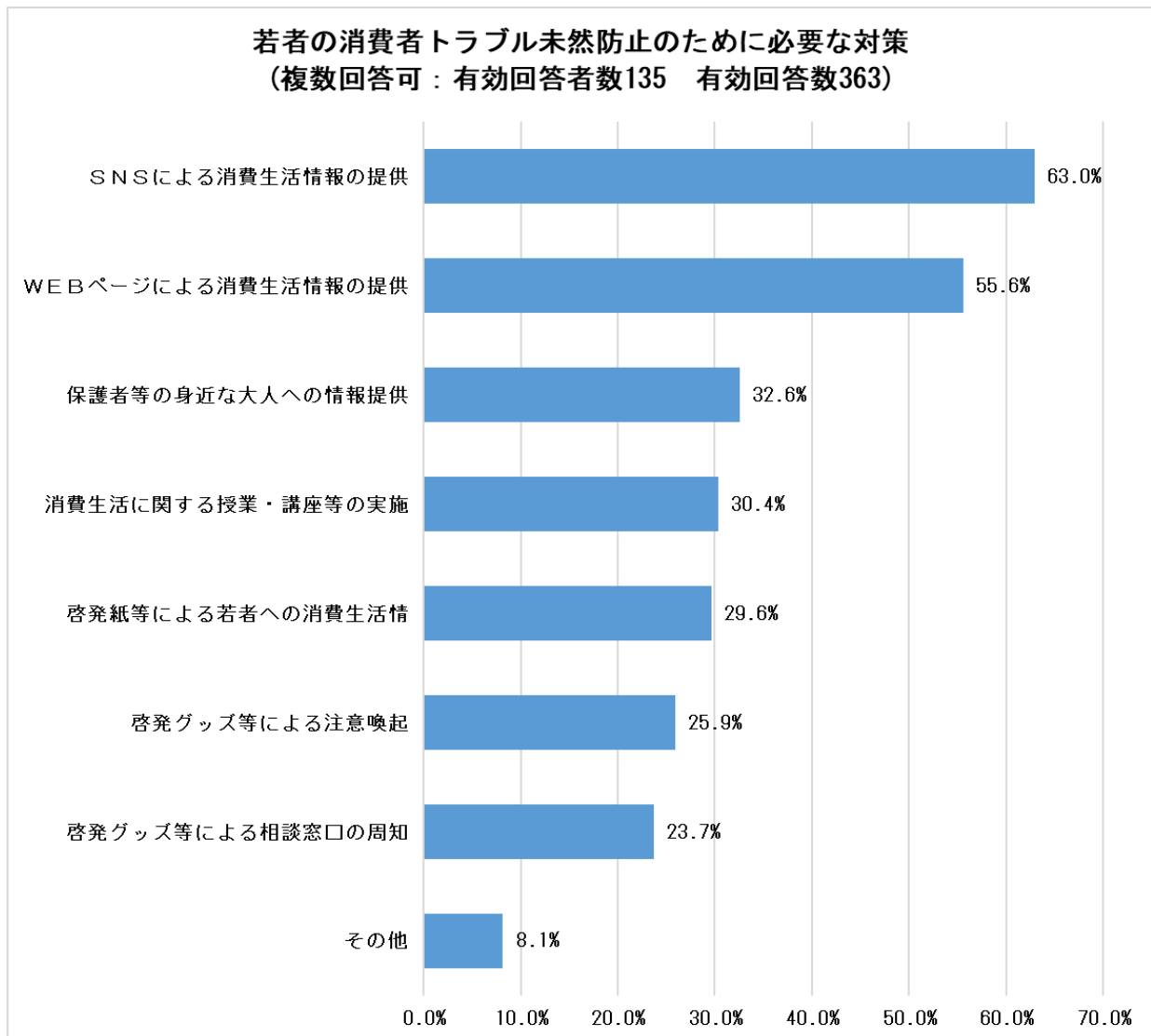
高齢者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「家族や地域での高齢者の見守り」が63.7%で最も多く、次いで「啓発紙等による高齢者への消費生活情報の提供」が63.0%、「消費者被害の発見・連絡のための地域の見守りネットワークへの情報提供」が38.5%の順であった。



問 19 若者の消費者トラブルを未然に防止するためには、どのような対策が必要だと思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

若者の消費者トラブルを未然に防止するために必要であると思われる対策は、「SNSによる消費生活情報の提供」が 63.0%で最も多く、「WEBページによる消費生活情報の提供」が 55.6%、「保護者等の身近な大人への情報提供」が 32.6%の順であった。

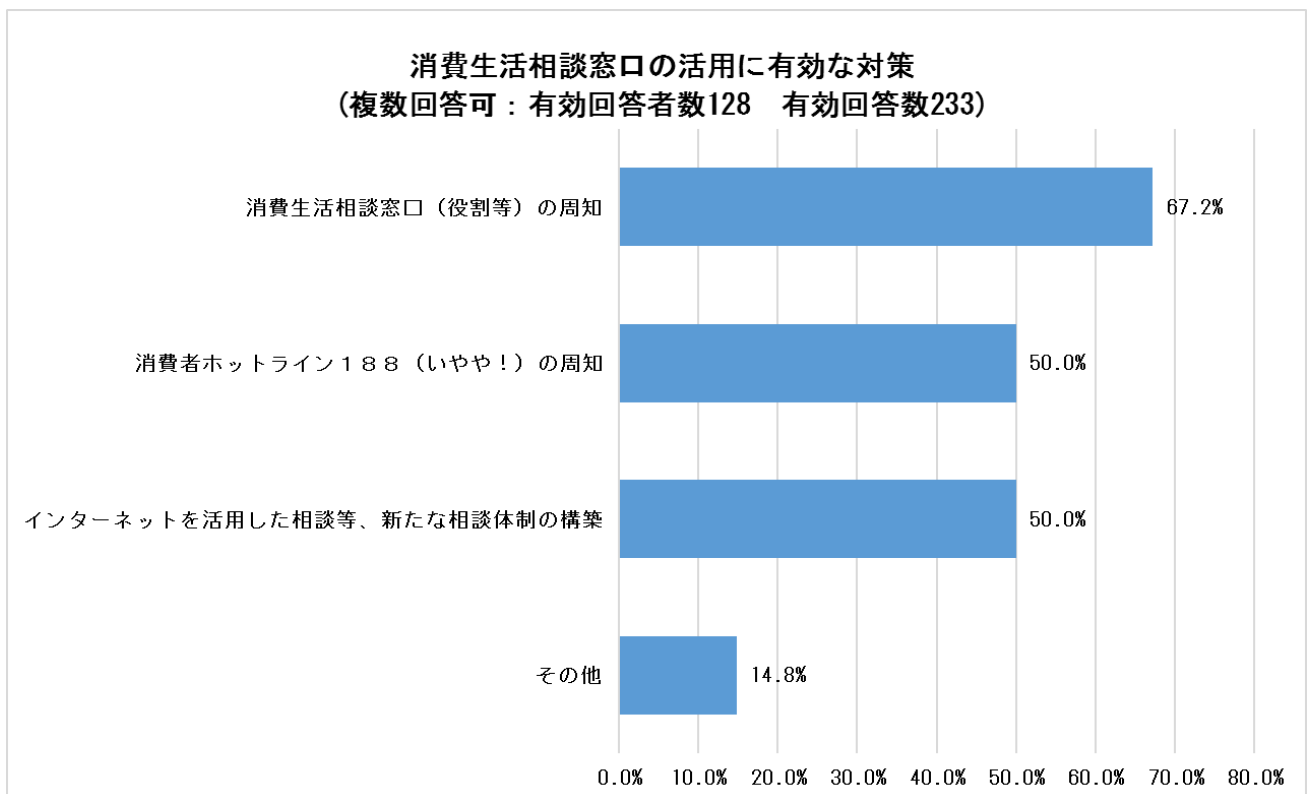


問 20 消費者被害に遭われた方のうち、より多くの方が消費生活相談窓口へ相談するためには、どのような対策が有効であると思いますか。(複数回答可)

<回答結果>

「消費生活相談窓口（役割等）の周知」が67.2%で最も多く、次いで「消費者ホットライン188（いやや!）の周知」が50.0%、「インターネットを活用した相談等、新たな相談体制の構築」が50.0%の順となった。

「その他」の回答には、「YouTube やテレビCM」、「地域の回覧板や公民館への掲示」、「電車内のつり広告」、「新聞、テレビ、ラジオ」、「駅やショッピングセンター等でのPR」などがあつた。

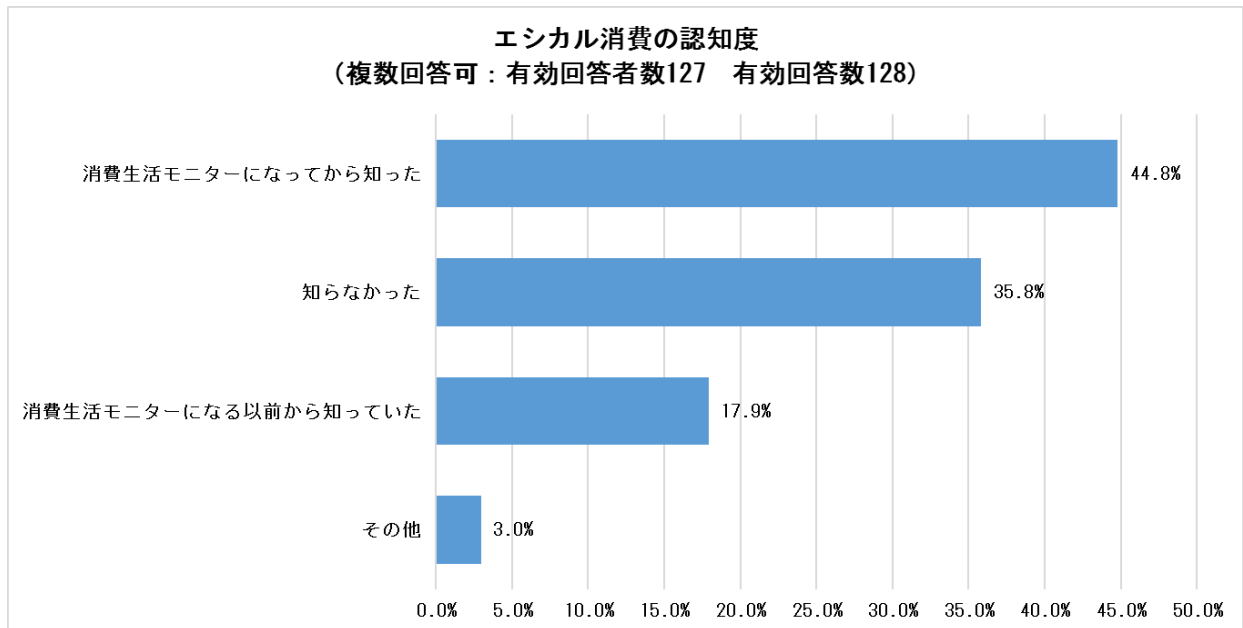


問 21 エシカル消費についてご存知ですか。

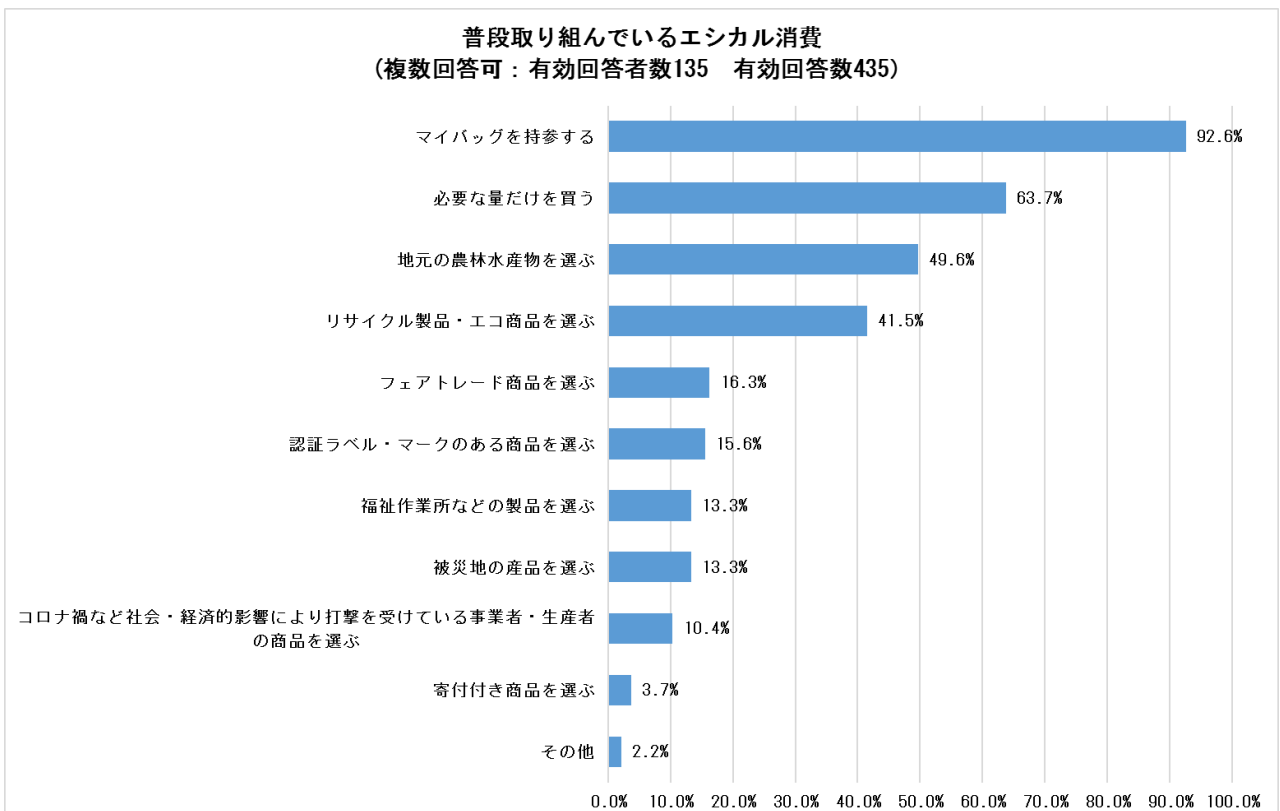
また、普段どのようなエシカル消費に取り組んでいますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度については、「消費生活モニターになってから知った」が 44.8%で最も多く、次いで「知らなかった」が 35.8%、「消費生活モニターになる以前から知っていた」が 17.9%の順であった。



また、普段取り組んでいるエシカル消費については、「マイバッグを持参する」が 92.6%で最も多く、次いで「必要な量だけを買う」が 63.7%、「地元の農林水産物を選ぶ」が 49.6%の順であった。

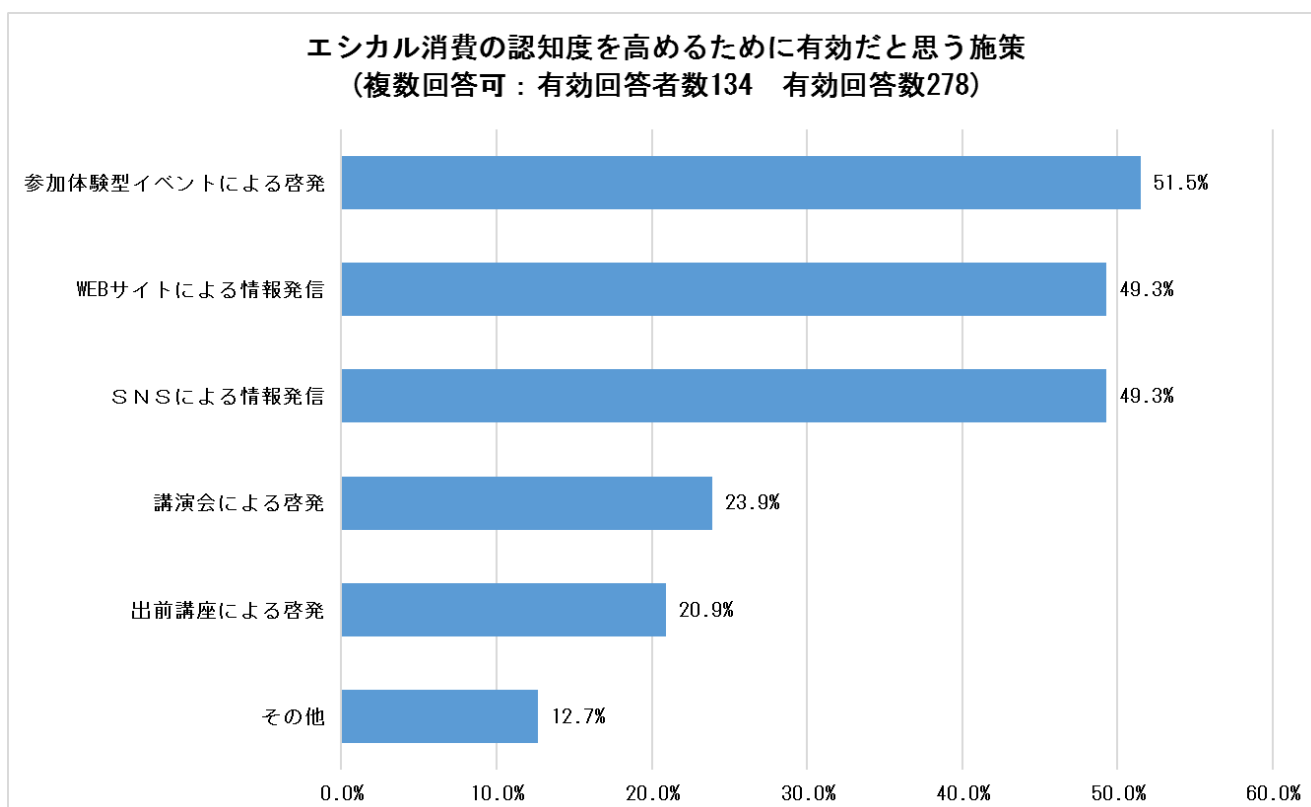


問 22 エシカル消費の認知度を高めるために、どのような施策が有効であると思われますか。(複数回答可)

<回答結果>

エシカル消費の認知度を高めるために有効な施策は、「参加体験型イベントによる啓発」が 51.5%で最も多く、次いで「WEBサイトによる情報発信」が 49.3%、「SNSによる情報発信」が 49.3%、「講演会による啓発」が 23.9%の順であった。

「その他」の回答には、「テレビCM」、「YouTube での PR」、「新聞広告」などがあつた。

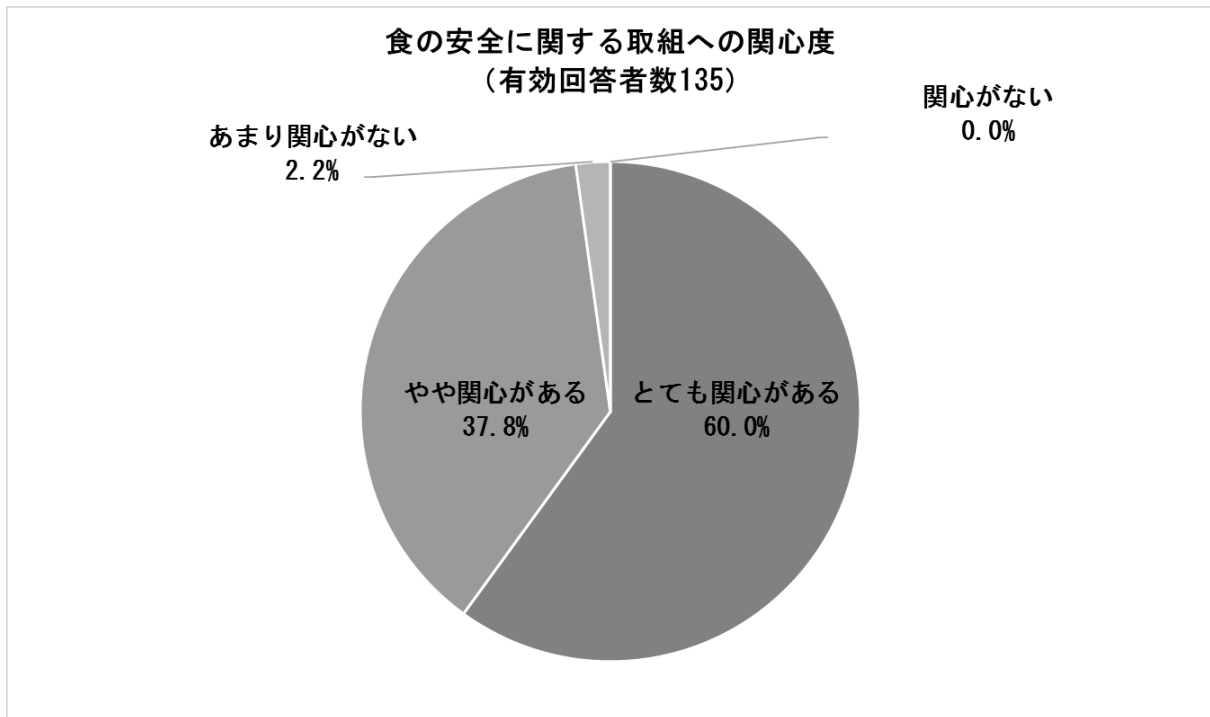


3 食の安全・安心について

問 23 食の安全に関する取組について、どの程度関心を持っていますか。(1つ選択)

<回答結果>

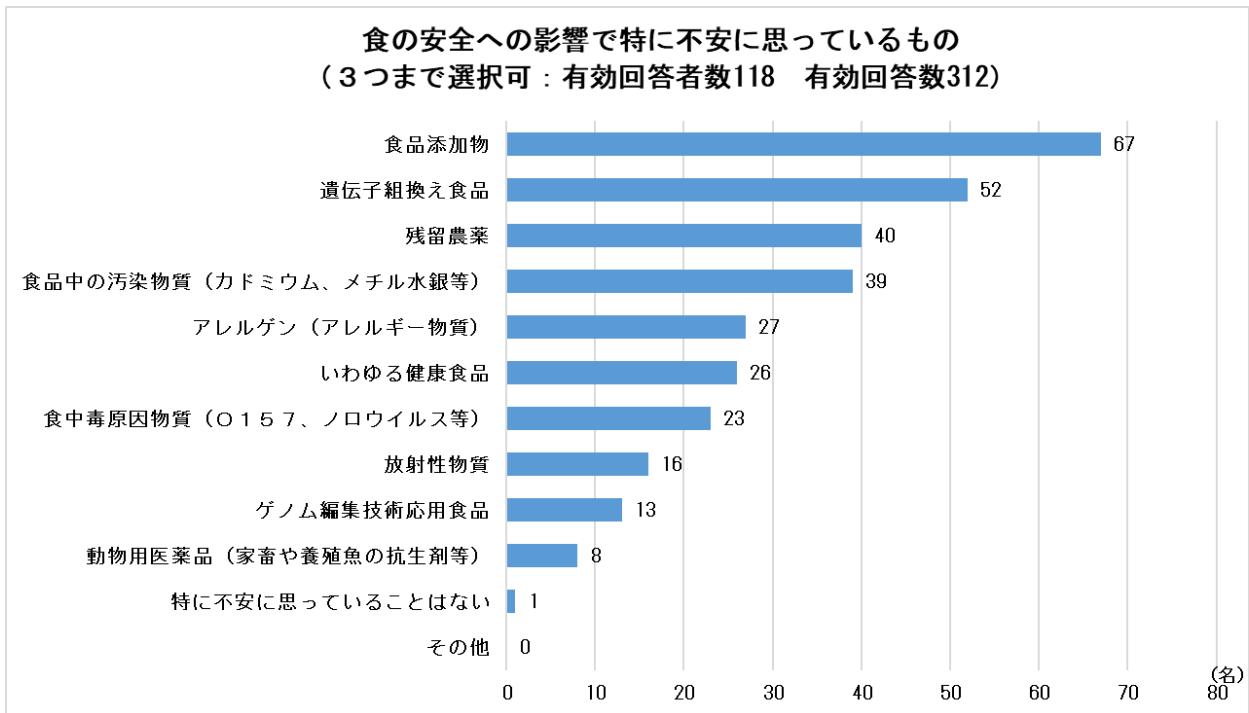
食の安全に対する取組については、「とても関心がある」が60.0%で最も多く、次いで「やや関心がある」が37.8%、「あまり関心がない」が2.2%、「関心がない」が0.0%であった。



問 24 食の安全に影響を及ぼすものとして、特に不安に思っているものは何ですか。(3つまで選択可)

<回答結果>

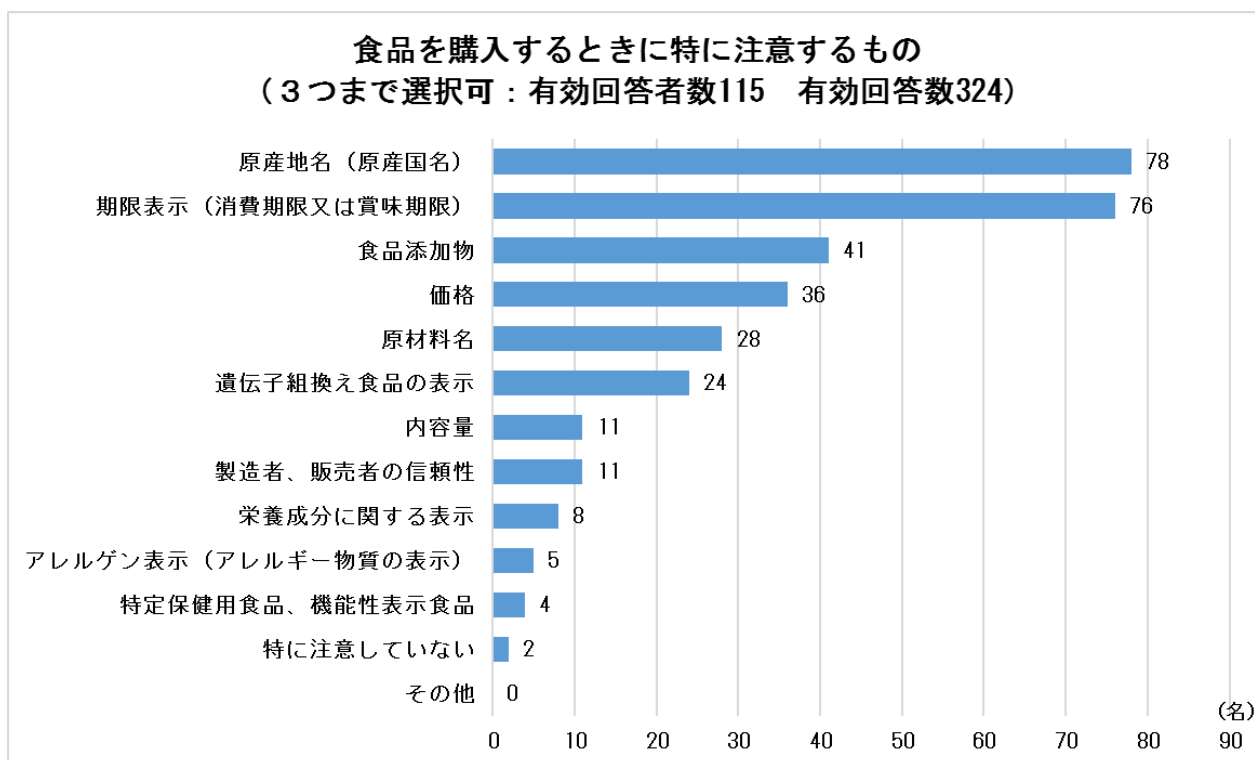
食の安全に影響を及ぼすものとして特に不安に思っているものについて、「食品添加物」が67名で最も多く、次いで「遺伝子組換え食品」が52名、「残留農薬」が40名の順であった。



問 25 食品を購入するときに、特に注意していることは何ですか。(3つまで選択可)

<回答結果>

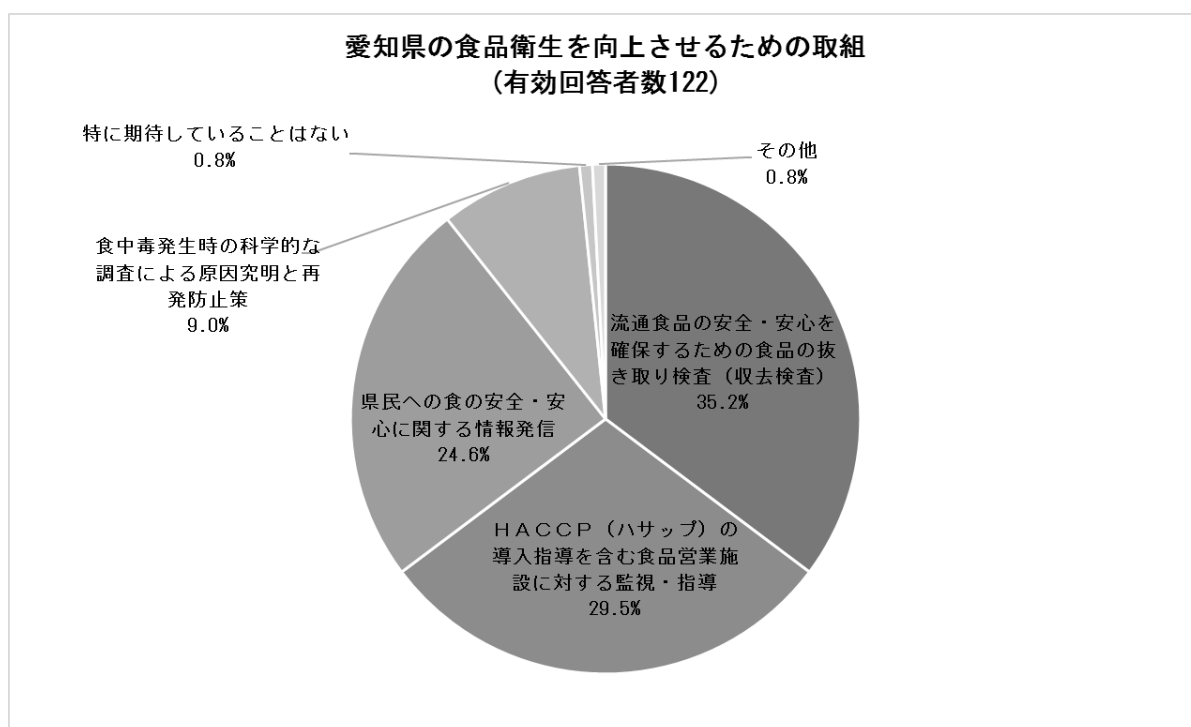
食品を購入するときに特に注意するものについて、「原産地名（原産国名）」が 78 名で最も多く、次いで「期限表示（消費期限又は賞味期限）」が 76 名、「食品添加物」が 41 名の順であった。



問 26 愛知県の食品衛生を向上させるための取組として、最も重要と考えているのは何ですか。
(1つ選択)

<回答結果>

愛知県の食品衛生を向上させる取組として最も重要と考えているものは、「流通食品の安全・安心を確保するための食品の抜き取り検査（収去検査）」が 35.2%で最も多く、次いで「HACCP（ハサップ）の導入指導を含む食品営業施設に対する監視・指導」が 29.5%、「県民への食の安全・安心に関する情報発信」が 24.6%の順であった。



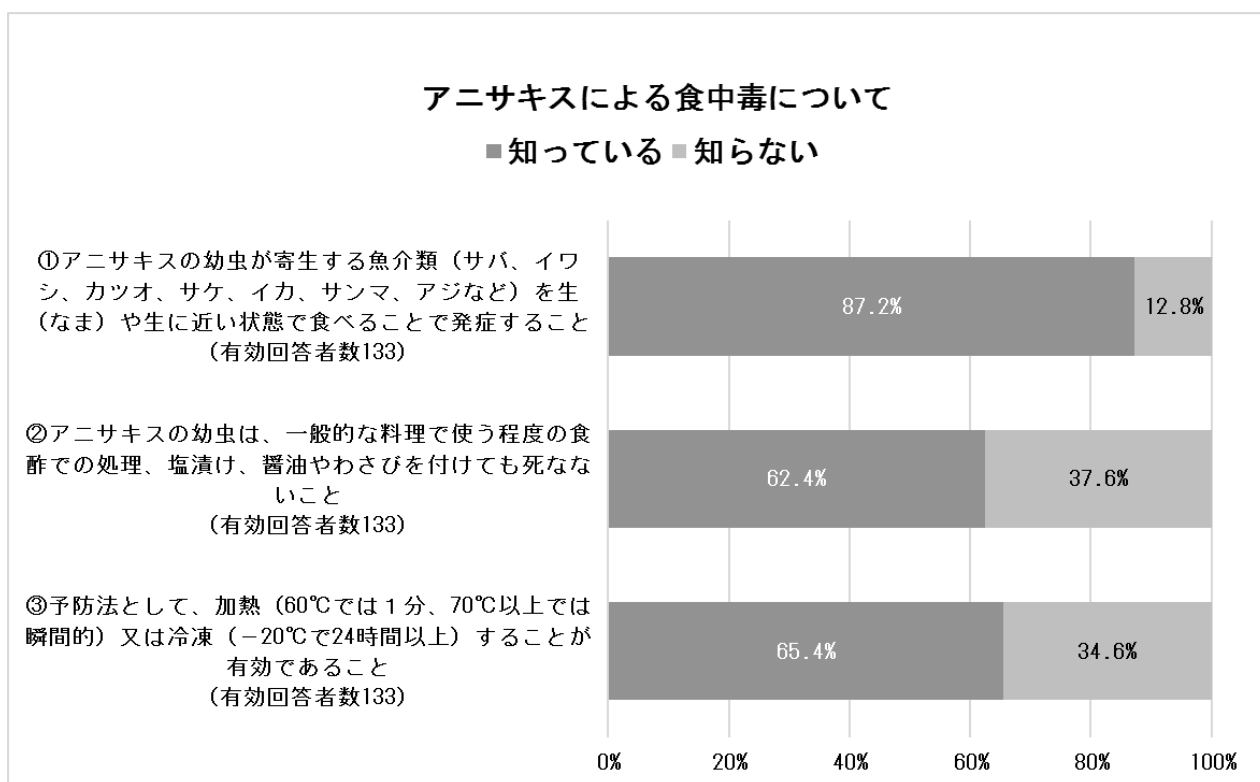
問 27 近年多発するアニサキスによる食中毒について、次のことを知っていますか。

《項目》

- ①アニサキスの幼虫が寄生する魚介類（サバ、イワシ、カツオ、サケ、イカ、サンマ、アジなど）を生や生に近い状態で食べることで発症すること
- ②アニサキスの幼虫は、一般的な料理で使う程度の食酢での処理、塩漬け、醤油やわさびを付けても死なないこと
- ③予防法として、加熱（60℃では1分、70℃以上では瞬時的）又は冷凍（-20℃で24時間以上）することが有効であること

<回答結果>

アニサキスによる食中毒に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、①87.2%、②62.4%、③65.4%であった。



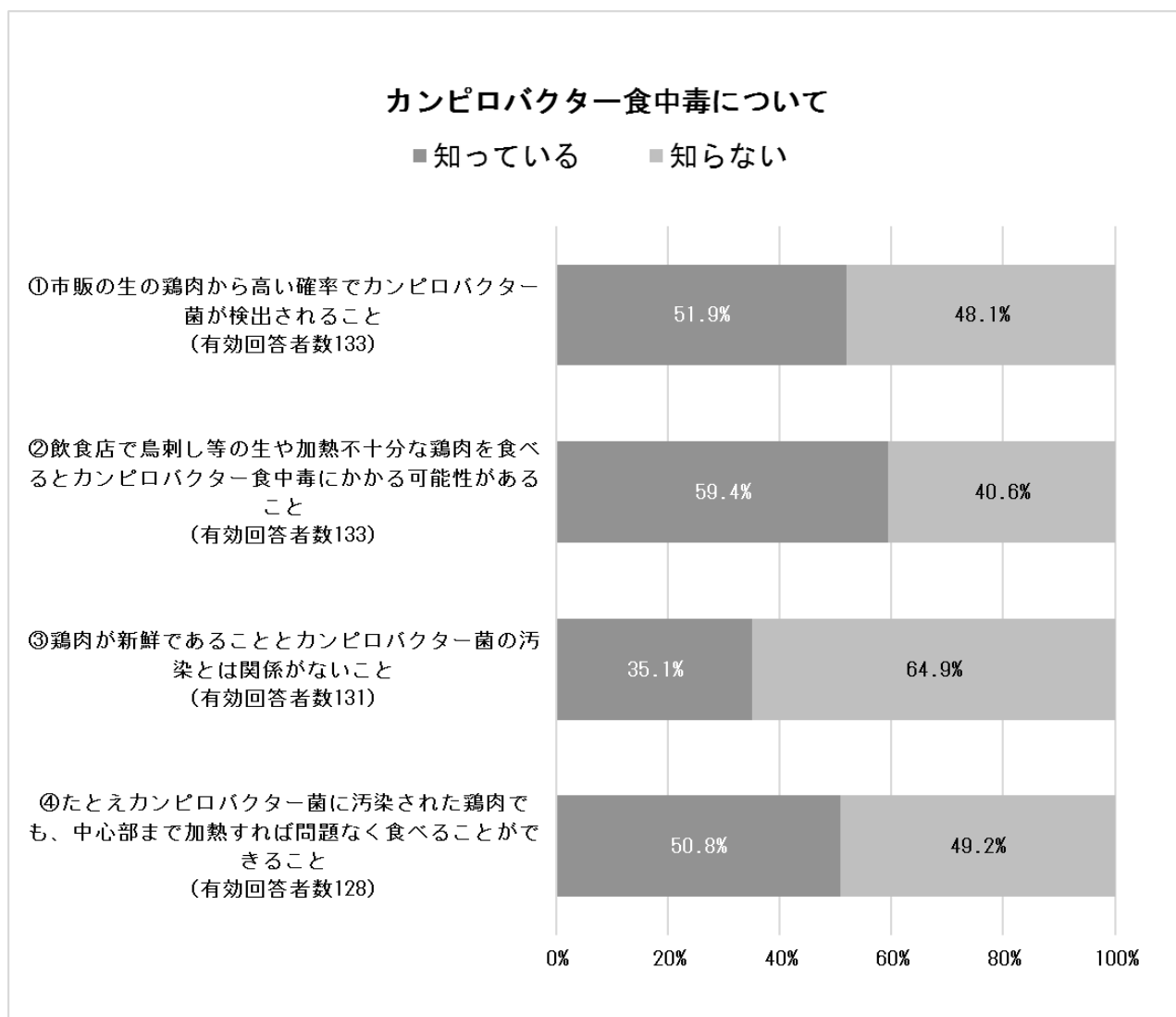
問 28 近年多発するカンピロバクター食中毒について、次のことを知っていますか。

《項目》

- ①市販の生の鶏肉から高い確率でカンピロバクター菌が検出されること
- ②飲食店で鳥刺し等の生や加熱不十分な鶏肉を食べるとカンピロバクター食中毒にかかる可能性があること
- ③鶏肉が新鮮であることとカンピロバクター菌の汚染とは関係がないこと
- ④たとえカンピロバクター菌に汚染された鶏肉でも、中心部まで加熱すれば問題なく食べること

<回答結果>

カンピロバクター食中毒に関わる4つの項目について、「知っている」を回答した方は、①51.9%、②59.4%、③35.1%、④は50.8%であった。



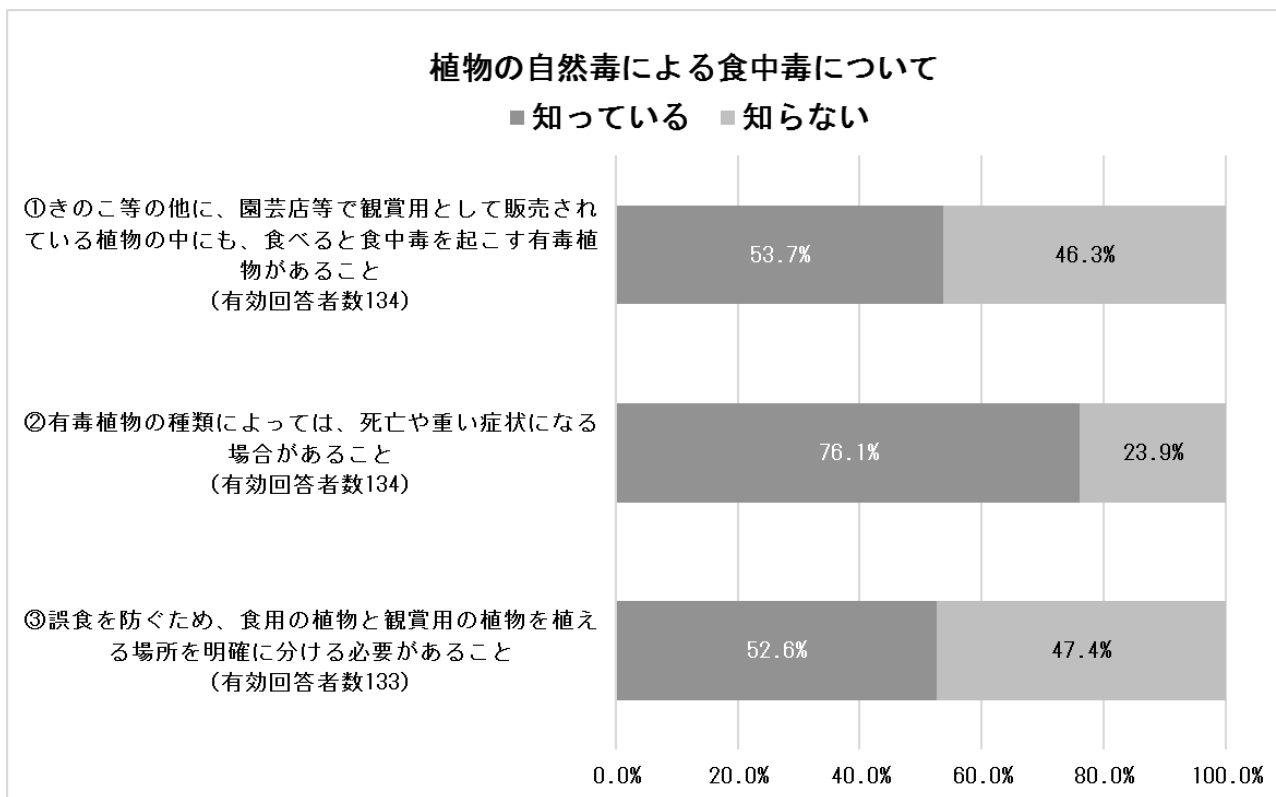
問 29 植物の自然毒による食中毒について、次のことを知っていますか。

《項目》

- ①きのこ等の他に、園芸店等で観賞用として販売されている植物の中にも、食べると食中毒を起こす有毒植物があること
- ②有毒植物の種類によっては、死亡や重い症状になる場合があること
- ③誤食を防ぐため、食用の植物と観賞用の植物を植える場所を明確に分ける必要があること

<回答結果>

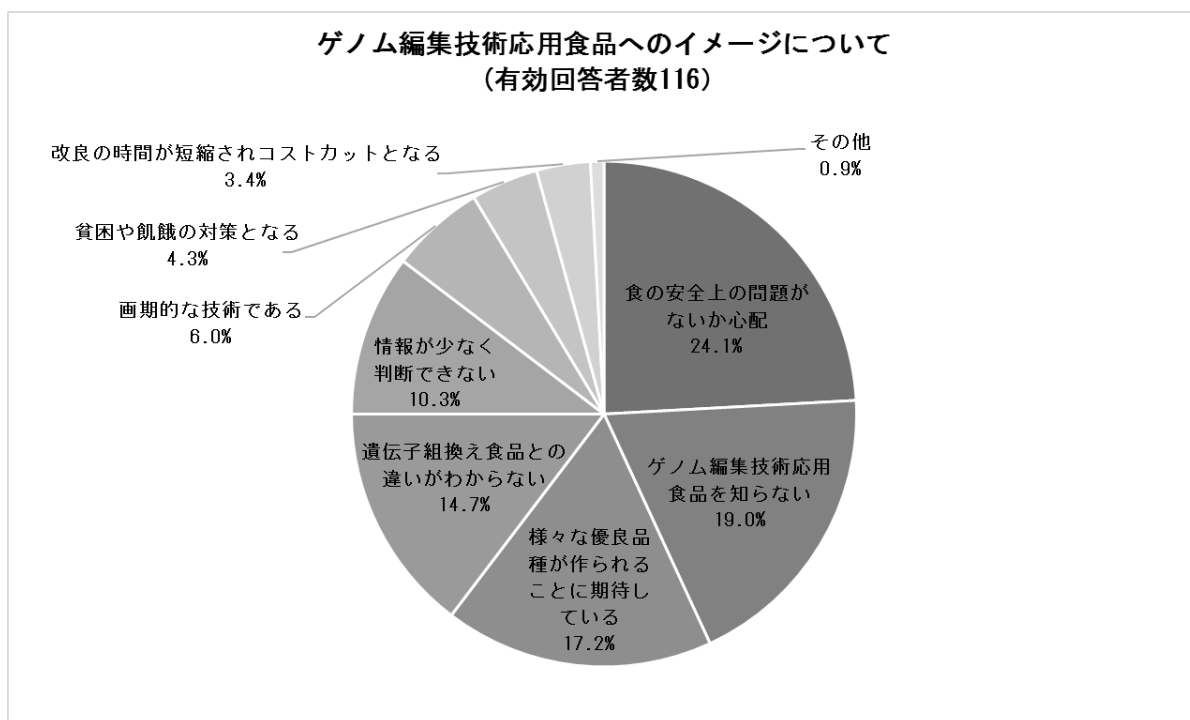
植物の自然毒による食中毒に関わる3つの項目について、「知っている」を回答した方は、①53.7%、②76.1%、③52.6%であった。



問 30 近年、ゲノム編集技術を用いた食品開発が進んでおり、2020年12月には、国内で初めて、ゲノム編集技術応用食品（GABA高蓄積トマト）の届出及び情報提供書が提出されました。ゲノム編集技術応用食品について、どのようなイメージを持っていますか。（1つ選択）

<回答結果>

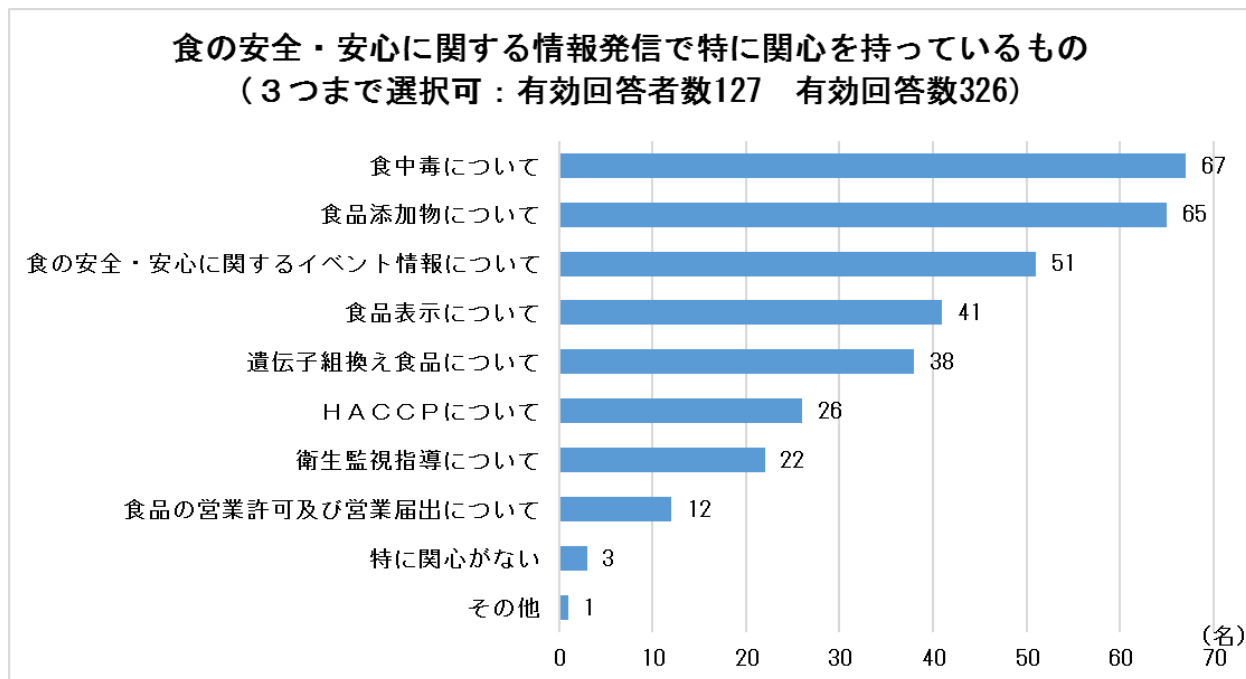
ゲノム編集技術応用食品について、どのようなイメージを持っているかについては、「食の安全上の問題がないか心配」が24.1%で最も多く、次いで「ゲノム編集技術応用食品を知らない」が19.0%、「様々な優良品種が作られることに期待している」が17.2%の順であった。



問 31 愛知県の食の安全・安心に関する情報発信（ホームページや Facebook 等）について、以下のうち、特に興味を持っているものは何ですか。（3つまで選択）

<回答結果>

愛知県の食の安全・安心に関する情報発信で、特に興味を持っているものについては、「食中毒について」が 67 名で最も多く、次いで「食品添加物について」が 65 名、「食の安全・安心に関するイベント情報について」が 51 名の順であった。



問 32 食の安全・安心に関する意見・要望等について、自由に記載してください。

食の安全・安心に関する意見・要望等を自由に記載していただきました。ここでは、そのうち一部を抜粋して紹介します。

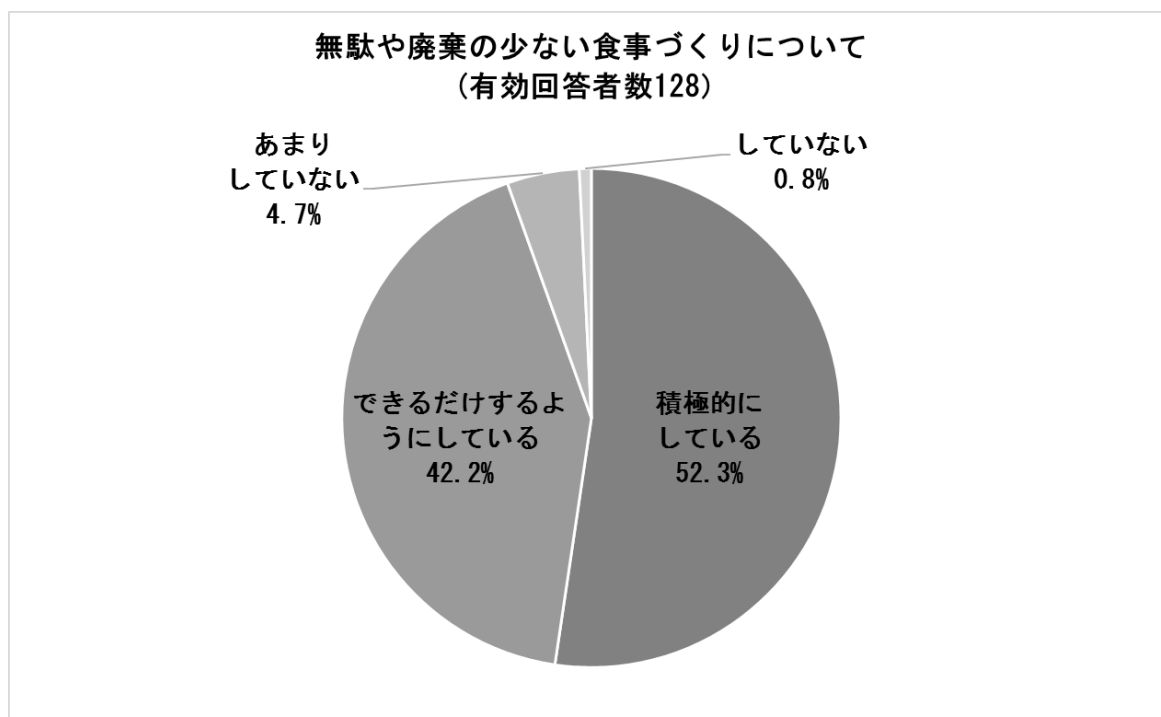
- ・食品表示偽装（産地等）は消費者を騙す悪質な行為と考えますので、衛生監視指導の強化を期待しています。（20代男性）
- ・産地偽造に対する罰則をもっと厳しくする。真面目な業者が損をするのは許せない。（60代男性）
- ・国産品、産地物を買うように、裏の表示に気をつけていますが、それでも、時々、外国産表示があいまいで、手に入れてから、どうしようとする事が多々あります。（70代女性）
- ・国によって添加物に対する基準が違うのか。何が違うのか、なぜ違っていいのか、日本の考え方をしっかり国民に説明するべき。（50代男性）
- ・加工食品には、記入されていない添加物もあり、心配になります。物価が上がり、量も変わらず価格もそのままだといった何が入っているのかと不安につながることもあります。（50代女性）
- ・遺伝子組み換え食品の表示をちゃんとしてほしい。消費者に選択肢を持たせてほしい。（60代女性）
- ・添加物や農薬など食に対して不安なことがたくさんありますが、一般的な知識だけでは分からないことばかりです。食品表示に興味がありますが、見てもよく分からず勉強したいと思います。表示の市民講座などがあれば参加してみたいです。（40代女性）
- ・情報発信がWeb中心に感じられるので、もっとマスメディアなどを使って広く告知すべきだと感じる。（50代男性）
- ・いろいろな情報は、何気なく新聞、テレビで見耳していると思っているが健康に害を及ぼす重要な事は、強く情報発信していただきたいです。（50代男性）
- ・食の安全、安心に関する情報発信が多数されているので、よく学んで、かしこい消費者を目指すことが大切だと思います。（70代男性）
- ・農業県でもある愛知の農産物を県民がもっと口にするような食のイベントや啓発活動を期待したいです。（50代男性）
- ・地産地消が大切だと思うので、もっと愛知県産のものを広まるように力を入れて欲しいです。（40代女性）
- ・身近なスーパーで、分かりやすいマーク（食の安全・安心が分かるもの）を貼ると若者から高齢者も関心をもてると思います（50代女性）

4 食生活について

問 33 食べ残しなど無駄や廃棄の少ない食事づくりを行っていますか。(1つ選択)

<回答結果>

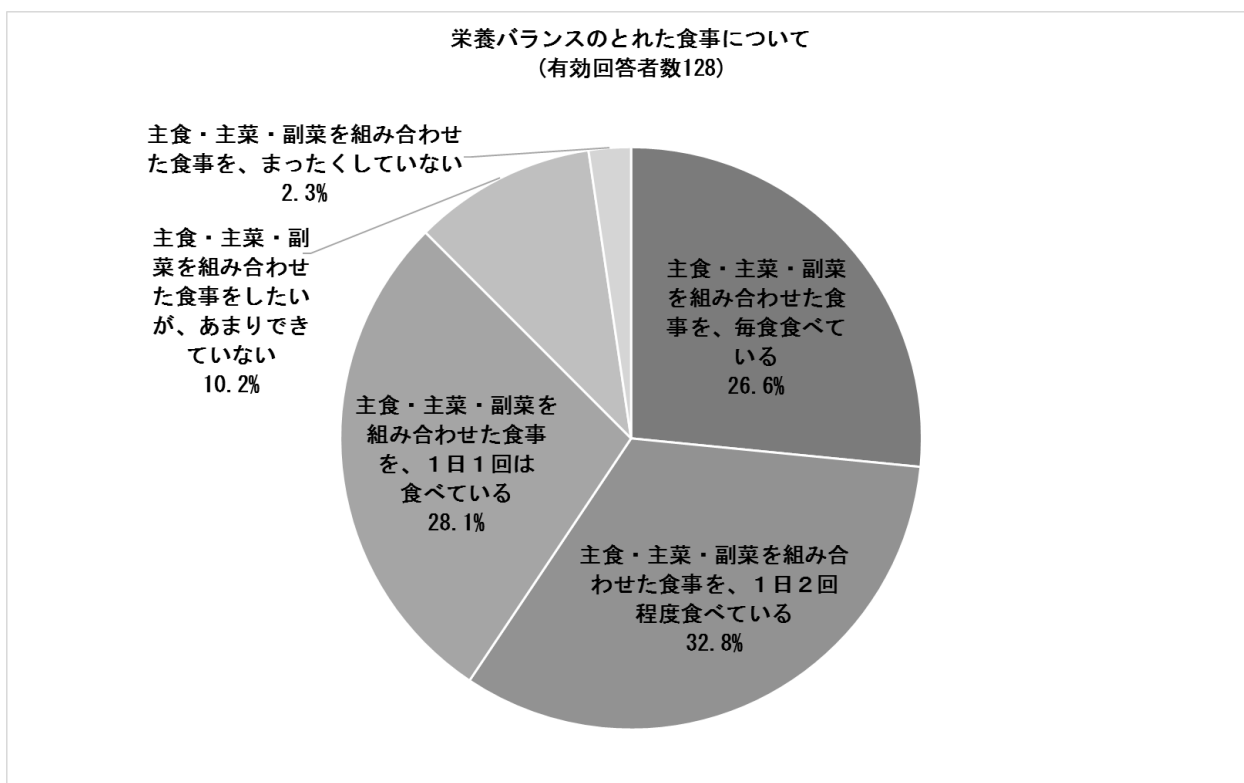
無駄や廃棄の少ない食事づくりについて、「積極的にしている」が 52.3%で最も多く、次いで「できるだけするようにしている」が 42.2%、「あまりしていない」が 4.7%の順であった。



問 34 栄養バランスに配慮し、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしていますか。(1つ選択)

<回答結果>

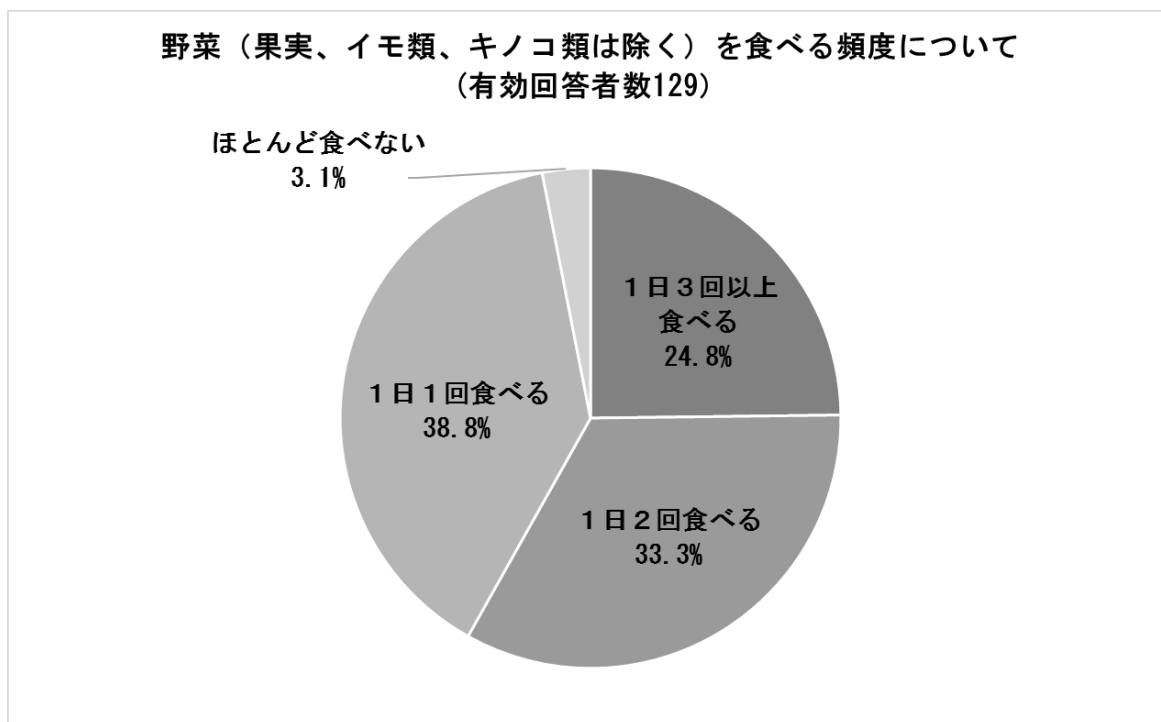
栄養バランスのとれた食事について、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日2回程度食べている」が32.8%で最も多く、次いで「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、1日1回は食べている」が28.1%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を、毎食食べている」が26.6%、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしたいが、あまりできていない」が10.2%の順であった。



問 35 野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度はどのくらいですか。（1つ選択）

<回答結果>

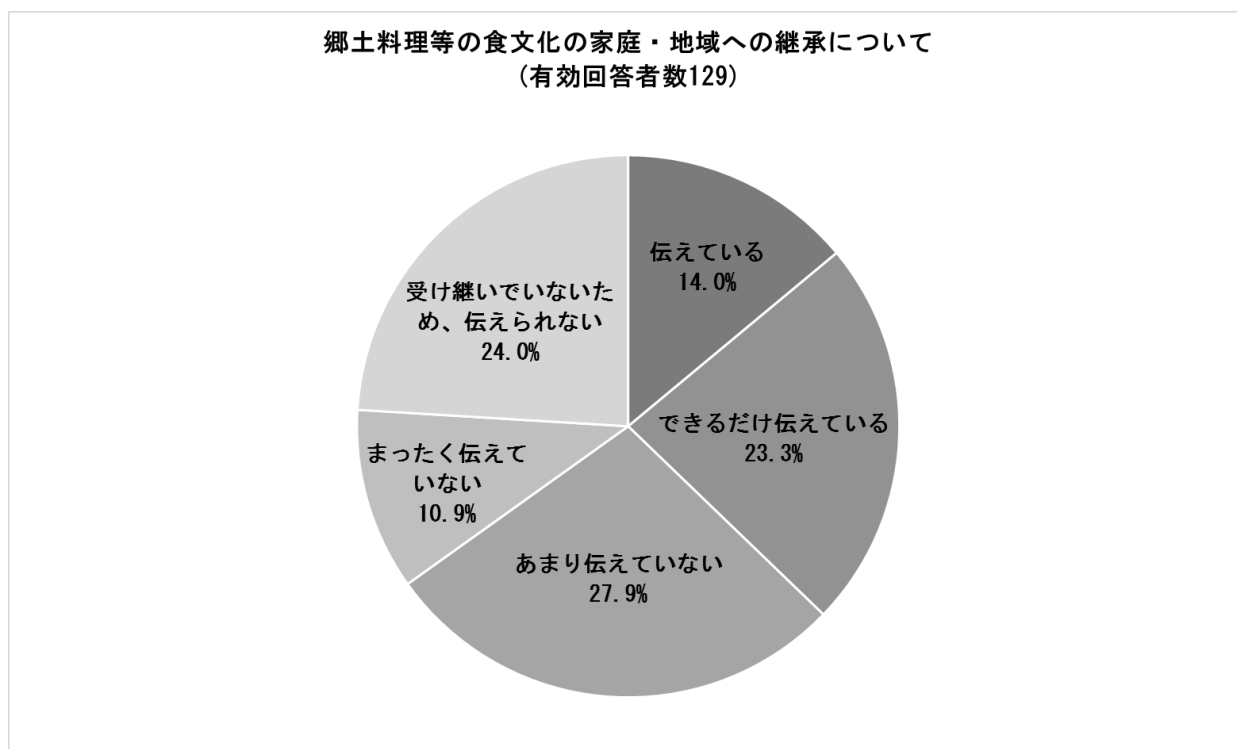
野菜（果実、イモ類、キノコ類は除く）を食べる頻度について、「1日1回食べる」が38.8%で最も多く、次いで「1日2回食べる」が33.3%、「1日3回以上食べる」が24.8%の順であった。



問 36 家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えていますか。（1つ選択）

<回答結果>

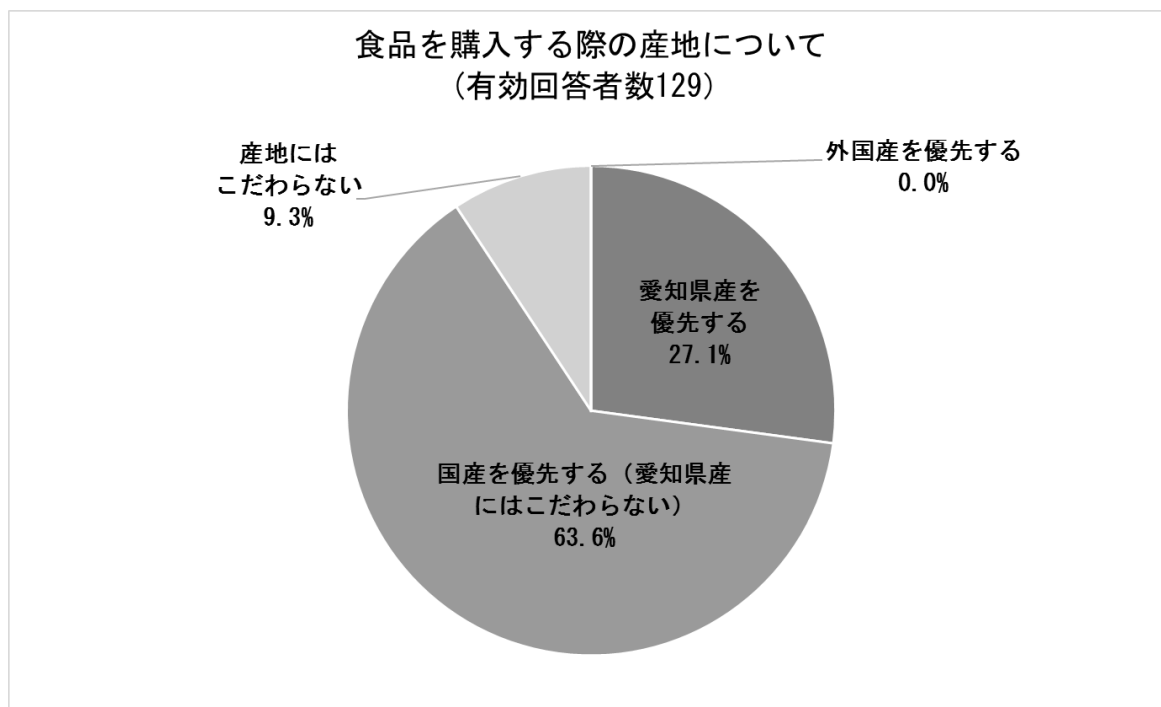
家庭や地域で受け継がれてきた郷土料理等を家庭（子どもやお孫さんを含む）や地域（ボランティア活動等）で次世代に伝えているかについて、「あまり伝えていない」が 27.9%で最も多く、次いで「受け継いでいないため、伝えられない」が 24.0%、「できるだけ伝えている」が 23.3%、「伝えている」が 14.0%、「まったく伝えていない」が 10.9%の順であった。



問 37 食品を購入する際に、どのような産地を優先して購入しますか。(1つ選択)

<回答結果>

食品を購入する際の産地について、「国産を優先する（愛知県産にはこだわらない）」が63.6%で最も多く、次いで「愛知県産を優先する」が27.1%、「産地にはこだわらない」が9.3%の順であった。



身近な商品・サービスの価格等に関するアンケート調査報告

2022年10月発行

愛知県県民文化局県民生活部県民生活課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6163（ダイヤルイン）